

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

学 校 法 人 北都健勝学園

(2) 大学名

新潟リハビリテーション大学

(3) 大学の位置

〒958-0053
新潟県村上市上の山2番16号

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
 ・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職 名	届 出 時	変 更 状 況	備 考
理 事 長	マトバ ミチコ 的場 已知子 (平成19年4月)		
学 長	オオサワ ゲンゴ 大澤 源吾 (平成19年4月)	ノダ タダシ 野田 忠 (平成23年3月)	前学長辞任に伴う新学長選出 (平成23年3月1日) (23)
学 部 長	タカハシ クニオ 高橋 邦丕 (平成22年4月)		
学科長等	タカハシ クニオ 高橋 邦丕 (平成22年4月)	タカハシ ヒロシ 高橋 洋 (平成24年4月)	学部長兼務のところH24.4就任 (24)

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。
 (例) 平成23年度に報告済の内容 → (23)
 平成25年度に報告する内容 → (25)
 ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
 ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。

(5) 調査対象学部等の名称, 定員, 入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部学科または研究科の専攻等, 定員を定めている組織ごとに記入してください。
 ・ 様式は, 平成22年度開設の4年制の学科の場合(平成25年度までの4年間)ですが, 開設年度・修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が3年以下の場合には欄を削除し, 5年以上の場合には, 欄を設けてください。)

(5) - ① 調査対象学部等の名称, 定員

調査対象学部等の名称(学位)	設置時の計画				備考
	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	
医療学部 リハビリテーション学科 理学療法専攻 作業療法専攻 言語聴覚専攻 学士(リハビリテーション学)	年	人	年次人	人	届出設置(25)
	4	40	0	160	
	4	40	0	160	
	4	40	0	160	

- (注) ・ 定員を変更した場合は, 「備考」に変更前的人数, 変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

対象年度 区分	平成22年度		平成23年度		平成24年度		平成25年度		平均入学定員 超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期		
A 入学定員	80人 (-) [-]	人	80人 (-) [-]	人	80人 (-) [-]	人	120人 (-) [-]	人	0.95倍	
志願者数	80 (-) [-]	(-) [-]	201 (-) [-]	(-) [-]	151 (-) [-]	(-) [-]	221 (-) [-]	(-) [-]		
受験者数	76 (-) [-]	(-) [-]	198 (-) [-]	(-) [-]	149 (-) [-]	(-) [-]	219 (-) [-]	(-) [-]		
合格者数	76 (-) [-]	(-) [-]	113 (-) [-]	(-) [-]	129 (-) [-]	(-) [-]	193 (-) [-]	(-) [-]		
B 入学者数	54 (-) [-]	(-) [-]	85 (-) [-]	(-) [-]	87 (-) [-]	(-) [-]	120 (-) [-]	(-) [-]		
入学定員超過率 B/A	0.67		1.06		1.08		1.00			

- (注) ・ 数字は, 平成25年5月1日現在の数字を記入してください。
 ・ ()内には, 編入学の状況について外数で記入してください。なお, 編入学を複数年次で行っている場合には, (())書きとするなどし, その旨を「備考」に付記してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 ・ []内には, 留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 ・ 留学生については, 「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により, 我が国の大学(大学院を含む。), 短期大学, 高等専門学校, 専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 ・ 短期交換留学生など, 定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は, 春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は, その他の学期欄は「-」を記入してください。また, その他の学期に入学定員を設けている場合は, 備考欄にその人数を記入してください。
 ・ 「入学定員超過率」については, 各年度の春季入学とその他を合計した入学定員, 入学者数で算出してください。なお, 計算の際は小数点以下第3位を切り捨て, 小数点第2位まで記入してください。

- ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から提出年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。なお、計算の際は「入学定員超過率」と同様にご記入ください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

学 年	平成22年度		平成23年度		平成24年度		平成25年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	[-] 54	[-] -	[-] 86	[-] -	[-] 88	[-] -	[-] 121	[-] -	
2年次	/		[-] 51	[-] -	[-] 78	[-] -	[-] 88	[-] -	
3年次			/		/		[-] 48	[-] -	[-] 76
4年次	/						/		[] 42
計			[-] 54	[-] 137	[-] 214	[-] 327			

- (注) ・ 数字は、平成25年5月1日現在の数字を記入してください。
- ・ []内には、留学生の状況について**内数**で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 - ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 - ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、**各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数**を記入してください。

(5) - ④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	入学者数(b)	退学者数(a)	退学者数(内訳)			主な退学理由	入学者数に 対する退学者数 の割合 (a/b)
			退学した年度	退学者数	退学者数の うち留学生数		
平成22年度 入学者	54 人	6 人	平成22年度	2 人	0 人	・就学意欲の低下(1人)・除籍(1人)	11.1% %
			平成23年度	2 人	0 人	・就学意欲の低下(1人)・その他(1人)	
			平成24年度	2 人	0 人	・学生個人の心身に関する事情(1人)、 ・就職(1人)	
			平成25年度	0 人	0 人		
平成23年度 入学者	85 人	13 人	平成23年度	8 人	0 人	・就学意欲の低下(1人)・就職(1人)・家庭 の事情(3人)・その他(3人)	15.3% %
			平成24年度	5 人	0 人	・就学意欲の低下(2人)・就職(1人)・家庭の事情(1 人)・他の教育機関への入学・転学(1人)	
			平成25年度	0 人	0 人		
平成24年度 入学者	87 人	0 人	平成24年度	0 人	0 人		0.0% %
			平成25年度	0 人	0 人		
平成25年度 入学者	120 人	0 人	平成25年度	0 人	0 人		0.0% %
合 計	346 人	19 人					5.5% %

(注)・数字は、平成25年5月1日現在の数字を記入してください。

- ・各年度の入学者数については、該当年度当初に入学した人数を記入してください。(途中で退学者がいた場合でも、その退学者数を減らす必要はありません。)
- ・各年度の退学者数については、退学年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記入してください。
- ・「入学者数に対する退学者数の割合」は、【当該対象年度の入学者のうち、平成25年度5月1日現在までに退学した学生数の合計】を、【当該対象年度の入学者数】で除した割合(%)を記入してください。その際、小数点以下第2位を四捨五入し、小数点以下第1位までを記入してください。
- ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(〇人)」というように、その人数も含めて記入してください。
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

2 授業科目の概要

<医療学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻>

(1) 授業科目表

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
導入教育	フレッシュマンセミナーⅠ (基礎)	1通				3		2	7		<p>○平田恒彦(講師)が退職したため、教員配置変更(25)</p> <p>○教育課程の充実を図るため教員を追加(25)</p> <p>高橋 洋(教授)</p> <p>平成22年1月 教員審査済</p> <p>星野浩通(助教)</p> <p>高橋圭三(助教)</p> <p>平成25年1月 教員審査済</p> <p>判定 可(25)</p> <p>○佐藤拓(講師)が退職したため、教員の配置変更。(24)</p> <p>○教育課程の充実を図るため教員を追加(24)</p> <p>浅海岩生(教授)</p> <p>高橋裕二(助教)</p> <p>平成23年8月 教員審査済</p> <p>判定 可(24)</p> <p>○教育課程の充実を図るため開講時期を前期から通年に変更(24)</p> <p>○教育課程の充実を図るため教員を追加(23)</p> <p>平田恒彦(講師)</p> <p>和田有子(講師)</p> <p>佐藤拓(講師)</p> <p>平成23年1月 教員審査済</p> <p>判定 可(23)</p>
		1前	1			2	1	3	0	4	
教養分野	フレッシュマンセミナーⅡ(応用)	1通				12	3	1	7		<p>○平田恒彦(講師)が退職したため、教員配置変更(25)</p> <p>○教育課程の充実を図るため教員を追加(25)</p> <p>高橋 洋(教授)</p> <p>平成22年1月 教員審査済</p> <p>星野浩通(助教)</p> <p>高橋圭三(助教)</p> <p>平成25年1月 教員審査済</p> <p>判定 可(25)</p> <p>○教育課程の充実を図るため開講時期を後期から通年に変更(22)</p> <p>○齋藤信夫(准教授)が辞退したため、教員の配置変更。後任未定(22)</p>
		1後	1			14	4	4	4	4	
人文科学	臨床倫理学	1・2前 未開講 1・2後		2		1					<p>○通常開講、教育課程の充実を図るため開講時期を後期から前期に変更(23)</p> <p>○履修希望者がいなかったため(22)</p>
	地域文化論	1・2前		2						兼 1	○兼任教員の都合により教員配置の変更。後任は吉川雄次(兼任)(25)
	心理学概論	1・2前		2			1				
	行動科学概論	1・2前		2			1	1			<p>○教育課程の充実を図るため、兼任教員より学内教員に変更</p> <p>若松 直樹(准教授)</p> <p>平成24年8月 教員審査済</p> <p>判定 可(24)</p> <p>○佐藤拓(講師)が退職したため、教員の配置変更。</p> <p>平成24年6月 教員審査提出予定(24)</p>
社会科学	社会学	1・2前		2						兼 1	
	経営学	1・2後		2						兼 1	○兼任教員の都合により教員配置の変更。後任は高津斌彰(兼任)(25)
	法学	1・2後		2						兼 1	

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					備 考	
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
教 養 分 野	社会科学	対人関係論	1・2後 1・2前	2			1	1				○教育課程の充実を図るため、兼任 教員より専任教員に変更 若松 直樹（准教授） 平成24年8月 教員審査済 判定可（24） ○佐藤拓（講師）が退職したため、 教員の配置変更、及び開講時期を前 期から後期に変更 平成24年6月 教員審査提出予定 （24）
	自然科学	統計学	1前	2	2						兼 1	○文部科学省医学教育課の指導（平 成21年11月）により選択科目から必 修科目に変更（22）
		生物科学	1・2前		2				1			
		地域環境学	1・2前 1・2後		2						兼 10	○担当する兼任教員の都合により、 竹内裕、長研一、田嶋雄洋、山田広 良、田村富夫、建部昌文、大滝慈 光、田中和仁、志田淳一、船山幸文 のオムニバス形式に変更（25） ○担当する兼任教員の都合により、 栗生明、奥平与人、鈴木弘樹のオム ニバス形式に変更（23） ○担当する兼任教員の都合により、 開講時期を前期に変更（22）
		人間支援科学	1・2後		2						兼 1	
		物理学	1・2前		2						兼 1	
	体育関係学	レクリエーション	1・2前		1						兼 1	
	保健体育	1前	1	4						兼 1	○文部科学省医学教育課の指導（平 成21年11月）により選択科目から必 修科目に変更（22）	
	情報	情報処理技法	1前	2							兼 1	
		情報処理演習	1・2後		2			1	1			○教育課程の充実を図るため、兼任 教員より学内教員に変更 若松 直樹（准教授） 平成24年8月 教員審査済 判定可（24） ○佐藤拓（講師）が退職したため、 教員の配置変更。 平成24年6月 教員審査提出予定 （24）
	外国語	英語Ⅰ（初級）	1前		2		1					○教育課程の充実を図るため、兼任 教員を追加（24）
		英語Ⅱ（中級）	1・2前 1・2通		2						兼 1	○兼任教員の都合により教員配置の 変更。後任は梶浦麻子（兼任） （24） ○担当する兼任教員の都合により、 開講時期を前期に変更（22）
		英語Ⅲ（上級）	1・2前 未開講 1・2後		2						兼 1	○兼任教員の都合により教員配置の 変更。後任はムリノス ビル（兼 任）（25） ○時間割編成における開講時期の変 更（24） ○兼任教員の都合により教員配置の 変更。後任はSam Suleiman（兼任） （24） ○履修希望者がいなかったため （23） ○履修希望者がいなかったため （22）
		オーラルコミュニケーションⅠ（初級）	1前		2		1					○教育課程の充実を図るため、兼任 教員を追加（24）
		オーラルコミュニケーションⅡ（中級）	1・2前 1・2後 1・2通		2						兼 1	○兼任教員の都合により教員配置の 変更。後任は梶浦麻子（兼任） （24） ○教育課程の充実を図るため開講時 期を後期から前期に変更（23） ○担当する兼任教員の都合により、 開講時期を後期に変更（22）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
教養分野	外国語 オーラルコミュニケーションⅢ(上級)	1・2前		2							兼 1 ○兼任教員の都合により教員配置の変更。後任はムリノス ビル(兼任)(25) ○時間割編成における開講時期の変更(24) ○兼任教員の都合により教員配置の変更。後任はBill Moulinos(兼任)(24) ○履修希望者がいなかったため(23) ○履修希望者がいなかったため(22)	
		未開講 1・2後										
	医療英文抄読法	3前	2			1						
	小計(26科目)											
専門基礎分野	基礎医学	解剖学Ⅰ(総論)	1通	2			1					
		解剖学Ⅱ(各論)	2前	1			1					
		解剖学実習	2後	1			1			2	2	
		生理学	1通	2			4					兼 1 ○真見富夫(教授)が退職し、引き続き兼任教員として担当(24)
		神経生理学	2前	2			4					兼 1 ○真見富夫(教授)が退職したため、教員の配置変更。後任は黒瀬雅之・山村健介(兼任)(24)
		生理学実習	2後	1			1 2 4			2	2	○教員の都合により北川純一(兼任)を黒瀬雅之(兼任)に変更(25) ○真見富夫(教授)が退職したため、教員の配置変更。後任は黒瀬雅之・北川純一(兼任)(24) ○教育課程の充実を図るため教員を追加 山村千絵(教授) 平成23年1月 教員審査済 判定可(23)
		病理学概論	2後	1								兼 1
	医学概論	1後	1			1						
	臨床医学	臨床心理学	1後	2				1	4			○教育課程の充実を図るため、兼任教員より学内教員に変更 若松 直樹(准教授) 平成24年8月 教員審査済 判定可(25) ○佐藤拓(講師)が退職したため、若松直樹(教授)・石本勝見(兼任)のオムニバス形式に変更(24) ○佐藤拓(講師)が退職したため、教員の配置変更。 平成24年6月 教員審査提出予定(24) ○杉下守弘(教授)が退職したため、教員の配置変更。科目開講時までに教員を配置する予定。(23)
		生涯発達心理学	1後	2				1				
		内科学	2前	1			1					
		臨床神経学	2前	1			1					
		小児科学	2後	1						1		
		精神医学	2前	1				1				
		リハビリテーション医学	2前	1			1					
	臨床医学	医療安全管理学	1前	2								兼 1
		感染症学	2前	1						1		
		リハビリテーション概論	1後	1			1					
	社会福祉	保健医療福祉制度論	2後 2前	1								兼 1 ○担当する兼任教員の都合により、開講時期を後期に変更(23)
		リハビリ関連科目	高次脳機能障害学概論	2後		1	1					
	摂食・嚥下障害学概論	2後		1	1							
	チーム医療学	1・2後		1							兼 1	

科目 区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数				専任教員等の配置					備 考		
			必修	選択	自由	教 授	准教授	講 師	助 教	助 手				
専門 基礎分野	リハビリ 関連科目	認知症	2・3前		1		1							
		薬理学	2・3前		1							兼 1		
		生化学	2・3前		1							兼 1	○教育課程の充実を図るため教員を追加(25) 金古賢太郎(兼任)	
		栄養学	1・2後 1・2前		1			1					○時間割編成における開講時期の変更(24)	
	心理 関連科目	社会心理学	1・2後		2				1			兼 1	○佐藤拓(講師)が引き続き兼任教員として担当(25) ○佐藤拓(講師)が退職したため、教員の配置変更。 平成24年6月 教員審査提出予定(24)	
		食の心理学	2・3前		1			1						
		健康心理学	1・2後		2			1						
		児童心理学	1・2後		2				1			兼 1	○教員の都合により角張慶子(兼任)に変更(25) ○教員の都合により齋藤恵美(兼任)に変更(24) ○佐藤拓(講師)が退職したため、教員の配置変更。 平成24年6月 教員審査提出予定(24)	
		心理学実験演習	1・2後		3			2 +	1				○教育課程の充実を図るため教員を追加(25) 若松直樹(准教授) 平成24年8月 教員審査済み 判定可(25) ○佐藤拓(講師)が退職したため、教員の配置変更。 平成24年6月 教員審査提出予定(24)	
		心理測定法	2・3前		4			1	1				○教育課程の充実を図るため教員を追加(25) 若松直樹(准教授) 平成24年8月 教員審査済み 判定可(25) ○佐藤拓(講師)が退職したため、教員の配置変更。 平成24年6月 教員審査提出予定(24)	
		認知心理学	1・2後		2				1			兼 1	○教員の都合により佐藤卓也(兼任)に変更(24) ○佐藤拓(講師)が退職したため、教員の配置変更。 平成24年6月 教員審査提出予定(24)	
		学習心理学	1・2後		2				1					
		音響・聴覚心理学	2・3前		2				1	1			○教育課程の充実を図るため教員を追加(25) 若松直樹(准教授) 平成24年8月 教員審査済み 判定可(25) ○佐藤拓(講師)が退職したため、教員の配置変更。 平成24年6月 教員審査提出予定(24)	
	神経心理学	2・3通 2・3後 2・3前		2			1				兼 1	○兼任教員の都合により教員配置の変更。後任は松田崇(兼任)(24) ○兼任教員に都合により開講時期を後期から通年に変更(24) ○杉下守弘(教授)が退職したため、教員の配置変更。後任は相場恵美子(非常勤)(23)		
		小計(36科目)												
専門 分野	基礎 理学療 法学	基礎運動学概論	1後	2			1				兼 1	○教員の都合により野本規絵(兼任)に変更(25) ○佐藤舜也(教授)が退職し、引き続き兼任教員として担当(24) 佐藤舜也(教授) 平成22年1月 教員審査済 判定可(22)		

科目 区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数				専任教員等の配置					備 考			
			必 修	選 択	自 由		教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手				
専門分野	基礎理学療法学	基礎運動学各論	2前	1				+					兼 1	○佐藤舜也（教授）が退職し、引き続き兼任教員とし担当（24） 佐藤舜也（教授） 平成22年1月 教員審査済 判定 可（22）	
		運動学実習	2前 2通 2前	1				1				1		○教育課程の充実を図るため、開講時期を通年から前期に変更（25） ○教育課程の充実を図るため、開講時期を前期から通年に変更（24） ○教育の充実を図るため、教員の配置変更。 浅海岩生（教授） 平成23年1月 教員審査済 判定 可（23）	
		整形外科学	2後 2前	1				+						兼 1	○佐藤舜也（教授）が退職し、引き続き兼任教員とし担当（24） ○兼任教員の都合により開講時期を前期から後期に変更（24）
		理学療法概論	1前	1				1							灰田信英（教授） 平成22年1月 教員審査済 判定 可（22）
		基礎理学療法学	2後 2前	1				1							○教育課程の充実を図るため、開講時期を前期から後期に変更（25） 浅海岩生（教授） 平成22年1月 教員審査済 判定 可（22）
		基礎運動療法学	2前	1				1							○教育の充実を図るため、教員の配置変更。 濱出茂治（教授） 平成23年1月 教員審査済 判定 可（23） 灰田信英（教授） 平成22年1月 教員審査済 判定 可（22）
		リハビリテーション工学	2後	1										兼 1	
		動作解析学実習	3通 3前	1				1					1		○教育課程の充実を図るため、開講時期を前期から通年に変更（24）
		臨床運動学	3前	1				+						兼 1	○教員の都合により宮入暁子（兼任）に変更（25） ○佐藤舜也（教授）が退職し、引き続き兼任教員とし担当（24） 佐藤舜也（教授） 平成22年1月 教員審査済 判定 可（22）
		理学療法評価学	1後	2				2							○教育課程の充実を図るため教員を高橋邦亓（教授）から浅海岩生（教授）に変更 浅海岩生（教授） 平成23年1月 教員審査済 判定 可（25） 高橋邦亓（教授） 灰田信英（教授） 平成22年1月 教員審査済 判定 可（22）
		理学療法評価学実習	2通 2後	2								1	1		○教育課程の充実を図るため開講時期を後期から通年に変更（23）
		理学療法評価学演習	3前	1								1			
		物理療法学	2後	2				1	+						濱出茂治（教授） 平成23年1月 教員審査済 判定 可（23） ○平成22年7月の教員審査に提出予定（22）
		物理療法学実習	3通 3前	1				1					1		○教育課程の充実を図るため、開講時期を前期から通年に変更（24）
		日常生活活動学	2後	2								1			
		日常生活活動学実習	3通	1								1			

科目 区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			専任教員等の配置					備 考	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門分野	運動器疾患理学療法学	3前	2			1						○濱出茂治（教授） 平成24年1月 教員審査済 判定 可（24） ○平成23年7月の教員審査に提出予定 （23） ○平成22年7月の教員審査に提出予定 （22）
	運動器疾患理学療法学実習	3前	1						1	1		
	中枢神経疾患理学療法学	3前	2			1						○教育課程の充実を図るため教員を 濱出茂治（教授）から高橋洋（教 授）に変更 高橋洋（教授） 平成23年1月 教員審査済 判定 可（25） 濱出茂治（教授） 平成23年1月 教員審査済 判定 可（23） ○平成22年7月の教員審査に提出予定 （22）
	中枢神経疾患理学療法学実習	3通	1			1				1		高橋洋（教授） 平成22年1月 教員審査済 判定 可（22）
	神経・筋疾患理学療法学	3前	1						1			
	発達障害理学療法学	3後	2					1				和田有子（講師） 平成22年1月 教員審査済 判定 可（22）
	呼吸器疾患理学療法学	3後	1			1						
	循環器疾患理学療法学	3後	1								兼 1	
	代謝系疾患理学療法学	3前	1			1						
	スポーツ障害理学療法学	3後		1								
	老年期理学療法学	3後		1		1						
	健康増進理学療法学	3後		1					1			
	義肢・装具学	3後	2			1						
	地域理学療法学	生活環境論	2後	2			1					○教育の充実を図るため兼任教員よ り学内教員に変更。 遠藤文雄（教授） 平成23年12月 教員審査 済 生活環境論 判定 可（24） ○非常勤確定 小野敏子、児玉敏彦、野澤繁、原口 裕希、松尾真輔、吉井真理以上6名に てオムニバス形式に変更（23）
		地域リハビリテーション論	3後	2			1					
	臨床実習	臨床見学実習	1後	1						4 3	2	○教育課程の充実を図るため、専任 教員を追加 星野浩通（助教） 平成24年1月 教員審査済 判定 可（25） ○教育課程の充実を図るため、専任 教員を追加 高橋裕二（助教） 平成23年8月 教員審査済 判定 可（24） 濱出茂治（教授） 平成23年1月 教員審査済 判定 可（23） ○齋藤信夫（准教授）が辞退したた め、教員の配置変更。後任未定 （22）

科目 区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			専任教員等の配置					備 考	
			必 修	選 択	自 由	教 授	准教授	講 師	助 教	助 手		
臨床実習 専門分野	基礎実習	2後	2			6	0			4 3	2	<p>○教育課程の充実を図るため、専任教員を追加 星野浩通（助教） 平成24年1月 教員審査済 判定 可（25）</p> <p>○教育課程の充実を図るため、専任教員を追加 高橋裕二（助教） 平成23年8月 教員審査済 判定 可（24）</p> <p>濱出茂治（教授） 平成23年1月 教員審査済 判定 可（23）</p> <p>○齋藤信夫（准教授）が辞退したため、教員の配置変更。後任未定（22）</p>
	臨床評価実習	3後				6	0			4 3	2	<p>○教育課程の充実を図るため、専任教員を追加 星野浩通（助教） 平成24年1月 教員審査済 判定 可（25）</p> <p>○教育課程の充実を図るため、専任教員を追加 高橋裕二（助教） 平成23年8月 教員審査済 判定 可（24）</p> <p>濱出茂治（教授） 平成23年1月 教員審査済 判定 可（23）</p> <p>○齋藤信夫（准教授）が辞退したため、教員の配置変更。後任未定（22）</p>
	臨床総合実習Ⅰ（評価・治療）	4前				6	0			4 3	2	<p>○教育課程の充実を図るため、専任教員を追加 星野浩通（助教） 平成24年1月 教員審査済 判定 可（25）</p> <p>○教育課程の充実を図るため、専任教員を追加 高橋裕二（助教） 平成23年8月 教員審査済 判定 可（24）</p> <p>濱出茂治（教授） 平成23年1月 教員審査済 判定 可（23）</p> <p>○齋藤信夫（准教授）が辞退したため、教員の配置変更。後任未定（22）</p>
	臨床総合実習Ⅱ（総括）	4前				6	0			4 3	2	<p>○教育課程の充実を図るため、専任教員を追加 星野浩通（助教） 平成24年1月 教員審査済 判定 可（25）</p> <p>○教育課程の充実を図るため、専任教員を追加 高橋裕二（助教） 平成23年8月 教員審査済 判定 可（24）</p> <p>濱出茂治（教授） 平成23年1月 教員審査済 判定 可（23）</p> <p>○齋藤信夫（准教授）が辞退したため、教員の配置変更。後任未定（22）</p>
特論	理学療法技術学Ⅰ（中枢）	4後		1		1						高橋邦丕（教授） 平成22年1月 教員審査済 判定 可（22）
	理学療法技術学Ⅱ（運動器）	4後		1		1				1		<p>○教育課程の充実を図るため、専任教員に変更 佐々木理恵子（助教） 平成24年1月 教員審査済 判定 可（25）</p> <p>○佐藤舜也（教授）が退職し、引き続き兼任教員とし担当（24） 佐藤舜也（教授） 平成22年2月 教員審査済 判定 可（22）</p>

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門分野	理学療法技術学Ⅲ（痛み）	4後		1							兼1	濱出茂治（教授） 平成23年1月 教員審査済 判定可（23） ○杉下守弘（教授）、岩田まな（教授）が退職したため、教員の配置変更。後任調整中（23） ○齋藤信夫（准教授）が辞退したため、教員の配置変更。後任未定（22）
	卒業研究	4通		2		15 16	2 3	4	2			
	小計（41科目）											

- (注) ・ 認可申請書の様式第2号（その2の1）に準じて作成してください。
- ・ 設置認可時の授業科目全て（兼任、兼任教員が担当する科目を含む。）を黒字で記載してください。その上で、前年度報告時（平成24年度に認可された大学等は設置認可時）より変更されているものは赤字見え消し修正し、「備考」に赤字で理由・変更年月等を記入してください。
 - ・ なお、昨年度の報告書において赤字で見え消した部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 兼任、兼担の教員が担当する授業科目については、備考欄に担当する教員数を「兼〇」と記入してください。
 - ・ 授業科目を追加又は内容を変更する場合で、専任教員が担当するため教員審査が必要なものについては、「専任教員採用等設置計画変更書」の審査年月等を「備考」に記入してください。（今後審査を受ける場合には、「平成〇年〇月 提出予定」と記入してください。）
 - ・ 「配当年次」について、設置認可申請時に開講時期を記入する必要がなかった学部等（平成19年度認可以前）についても、設置認可時の状況を黒字で記入してください。また、前年度報告時より修正があれば、赤字で見え消し修正をしてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても記入してください。

(2) 授業科目数

認可時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計	必修	選択	自由	計	
科目	科目	科目	科目	科目	科目	科目	科目	
57	46	0	103	59	44	0	103	
				[2]	[Δ2]	[0]	[0]	

- (注) ・ 未開講である場合や、配当年次に関わらず、教育課程上の授業科目数を記入する（資格に関する課程など、別課程としている授業科目については算入する必要はありません。）とともに、[] 内に、設置認可時の計画からの増減を記入してください。（記入例：1科目減の場合：Δ1）

2 授業科目の概要

<医療学部 リハビリテーション学科 言語聴覚学専攻>

(1) 授業科目表

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数				専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
教養分野	フレッシュマンセミナーⅠ（基礎）	1通		1			3 2		2		7 5	<p>○平田恒彦（講師）が退職したため、教員配置変更（25）</p> <p>○教育課程の充実を図るため教員を追加（25）</p> <p>高橋 洋（教授） 平成22年1月 教員審査済</p> <p>星野浩通（助教） 高橋圭三（助教） 平成25年1月 教員審査済</p> <p>判定 可（25）</p> <p>○佐藤拓（講師）が退職したため、教員の配置変更。（24）</p> <p>○教育課程の充実を図るため教員を追加（24）</p> <p>浅海岩生（教授） 高橋裕二（助教） 平成23年8月 教員審査済</p> <p>判定 可（24）</p> <p>○教育課程の充実を図るため開講時期を前期から通年に変更（24）</p>	
		1前				4		3 0		4	<p>○教育課程の充実を図るため教員を追加（23）</p> <p>平田恒彦（講師） 和田有子（講師） 佐藤拓（講師） 平成23年1月 教員審査済</p> <p>判定 可（23）</p>		
	1通		1			12 14	3 4	1 4	7 4	4	<p>○平田恒彦（講師）が退職したため、教員配置変更（25）</p> <p>○教育課程の充実を図るため教員を追加（25）</p> <p>高橋 洋（教授） 平成22年1月 教員審査済</p> <p>星野浩通（助教） 高橋圭三（助教） 平成25年1月 教員審査済</p> <p>判定 可（25）</p> <p>○教育課程の充実を図るため開講時期を後期から通年に変更（22）</p> <p>○齋藤信夫（准教授）が辞退したため、教員の配置変更。後任未定（22）</p>		
	1後												
人文科学	臨床倫理学	1・2前 未開講 1・2後		2		1						<p>○通常開講、教育課程の充実を図るため開講時期を後期から前期に変更（23）</p> <p>○履修希望者がいなかったため（22）</p>	
	地域文化論	1・2前		2							兼 1	<p>○兼任教員の都合により教員配置の変更。後任は吉川雄次（兼任）（25）</p>	
	心理学概論	1・2前		2		1							
	行動科学概論	1・2前		2				1				<p>○教育課程の充実を図るため、兼任教員より学内教員に変更</p> <p>若松 直樹（准教授） 平成24年8月 教員審査済</p> <p>判定 可（24）</p> <p>○佐藤拓（講師）が退職したため、教員の配置変更。</p> <p>平成24年6月 教員審査提出予定（24）</p>	
社会科学	社会学	1・2前		2								兼 1	
	経営学	1・2後		2								兼 1	<p>○兼任教員の都合により教員配置の変更。後任は高津斌彰（兼任）（25）</p>
	法学	1・2後		2								兼 1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備 考		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
教養分野	社会科学	対人関係論	1・2後 1・2前		2				1	1			○教育課程の充実を図るため、兼任教員より専任教員に変更 若松 直樹(准教授) 平成24年8月 教員審査済 判定 可 (24) ○佐藤拓(講師)が退職したため、教員の配置変更、及び開講時期を前期から後期に変更 平成24年6月 教員審査提出予定(24)
		統計学	1前	2	2						兼 1	○文部科学省医学教育課の指導(平成21年11月)により選択科目から必修科目に変更(22)	
	自然科学	生物科学	1・2前		2					1			
		地域環境学	1・2前 1・2後		2							兼 10	○担当する兼任教員の都合により、竹内裕、長研一、田嶋雄洋、山田広良、田村富夫、建部昌文、大滝慈光、田中和仁、志田淳一、船山幸文のオムニバス形式に変更(25) ○担当する兼任教員の都合により、粟生明、奥平与人、鈴木弘樹のオムニバス形式に変更(23) ○担当する兼任教員の都合により、開講時期を前期に変更(22)
		人間支援科学	1・2後		2							兼 1	
		物理学	1・2前		2							兼 1	
	体育関係学	レクリエーション	1・2前		1							兼 1	
		保健体育	1前	1	1							兼 1	○文部科学省医学教育課の指導(平成21年11月)により選択科目から必修科目に変更(22)
	情報	情報処理技法	1前	2								兼 1	
		情報処理演習	1・2後		2				1	1			○教育課程の充実を図るため、兼任教員より学内教員に変更 若松 直樹(准教授) 平成24年8月 教員審査済 判定 可 (24) ○佐藤拓(講師)が退職したため、教員の配置変更。 平成24年6月 教員審査提出予定(24)
	外国語	英語Ⅰ(初級)	1前		2		1						○教育課程の充実を図るため、兼任教員を追加(24)
		英語Ⅱ(中級)	1・2前 1・2通		2							兼 1	○兼任教員の都合により教員配置の変更。後任は梶浦麻子(兼任)(24) ○担当する兼任教員の都合により、開講時期を前期に変更(22)
		英語Ⅲ(上級)	1・2前 未開講 1・2後		2							兼 1	○兼任教員の都合により教員配置の変更。後任はムリノス ビル(兼任)(25) ○時間割編成における開講時期の変更(24)(24) ○兼任教員の都合により教員配置の変更。後任はSam Suleiman(兼任)(24) ○履修希望者がいなかったため(23) ○履修希望者がいなかったため(22)
		オーラルコミュニケーションⅠ(初級)	1前		2		1						○教育課程の充実を図るため、兼任教員を追加(24)
		オーラルコミュニケーションⅡ(中級)	1・2前 1・2後 1・2通		2							兼 1	○兼任教員の都合により教員配置の変更。後任は梶浦麻子(兼任)(24) ○教育課程の充実を図るため開講時期を後期から前期に変更(23) ○担当する兼任教員の都合により、開講時期を後期に変更(22)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
教養分野	外国語 オーラルコミュニケーションⅢ(上級)	1・2前		2							兼1 ○兼任教員の都合により教員配置の変更。後任はムリノス ビル(兼任)(25) ○時間割編成における開講時期の変更(24) ○兼任教員の都合により教員配置の変更。後任はBill Moulinos(兼任)(24) ○履修希望者がいなかったため(23) ○履修希望者がいなかったため(22)	
		未開講 1→2後										
	医療英文抄読法	3前	2			1						
	小計(26科目)											
専門基礎分野	基礎医学	解剖学Ⅰ(総論)	1通	2			1					
		解剖学Ⅱ(各論)	2前	1			1					
		解剖学実習	2後	1			1		2	2		
		生理学	1通	2			4				兼1	○真貝富夫(教授)が退職し、引き続き兼任教員として担当(24)
		神経生理学	2前	2			4				兼1	○真貝富夫(教授)が退職したため、教員の配置変更。後任は黒瀬雅之・山村健介(兼任)(24)
		生理学実習	2後	1			1 2 4		2	2		○教員の都合により北川純一(兼任)を黒瀬雅之(兼任)に変更(25) ○真貝富夫(教授)が退職したため、教員の配置変更。後任は黒瀬雅之・北川純一(兼任)(24) ○教育課程の充実を図るため教員を追加 山村千絵(教授) 平成23年1月 教員審査済 判定可(23)
		病理学概論	2後	1							兼1	
	医学概論	1後	1			1						
	臨床医学	臨床心理学	1後	2				1	4			○教育課程の充実を図るため、兼任教員より学内教員に変更 若松 直樹(准教授) 平成24年8月 教員審査済 判定可(25) ○佐藤拓(講師)が退職したため、若松直樹(教授)・石本勝見(兼任)のオムニバス形式に変更(24) ○佐藤拓(講師)が退職したため、教員の配置変更。 平成24年6月 教員審査提出予定(24) ○杉下守弘(教授)が退職したため、教員の配置変更。科目開講時までには教員を配置する予定。(23)
		生涯発達心理学	1後	2				1				
		内科学	2前	1			1					
		臨床神経学	2前	1			1					
		小児科学	2後	1					1			
		精神医学	2前	1				1				
		リハビリテーション医学	2前	1			1					
	臨床医学	医療安全管理学	1前	2							兼1	
		感染症学	2前	1					1			
		リハビリテーション概論	1後	1			1					
	社会福祉	保健医療福祉制度論	2後 2前	1							兼1	○担当する兼任教員の都合により、開講時期を後期に変更(23)
		高次脳機能障害学概論	2後		1		1					
リハビリ関連科目	摂食・嚥下障害学概論	2後		1		1						
	チーム医療学	1・2後		1						兼1		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数				専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	教 授	准教授	講 師	助 教	助 手			
専門基礎分野	リハビリ関連科目	認知症	2・3前	1		1							
		薬理学	2・3前	1								兼 1	
		生化学	2・3前	1								兼 1	○教育課程の充実を図るため教員を追加(25) 金古賢太郎(兼任)
		栄養学	1・2後 1・2前	1			1						○時間割編成における開講時期の変更(24)
	心理関連科目	社会心理学	1・2後		2				1			兼 1	○佐藤拓(講師)が引き続き兼任教員として担当(25) ○佐藤拓(講師)が退職したため、教員の配置変更。 平成24年6月 教員審査提出予定(24)
		食の心理学	2・3前		1			1					
		健康心理学	1・2後		2			1					
		児童心理学	1・2後		2					1		兼 1	○教員の都合により角張慶子(兼任)に変更(25) ○教員の都合により齋藤恵美(兼任)に変更(24) ○佐藤拓(講師)が退職したため、教員の配置変更。 平成24年6月 教員審査提出予定(24)
		心理学実験演習	1・2後		3			2 +		1			○教育課程の充実を図るため教員を追加(25) 若松直樹(准教授) 平成24年8月 教員審査済み 判定可(25) ○佐藤拓(講師)が退職したため、教員の配置変更。 平成24年6月 教員審査提出予定(24)
		心理測定法	2・3前		4			1		1			○教育課程の充実を図るため教員を追加(25) 若松直樹(准教授) 平成24年8月 教員審査済み 判定可(25) ○佐藤拓(講師)が退職したため、教員の配置変更。 平成24年6月 教員審査提出予定(24)
		認知心理学	1・2後		2					1		兼 1	○教員の都合により佐藤卓也(兼任)に変更(24) ○佐藤拓(講師)が退職したため、教員の配置変更。 平成24年6月 教員審査提出予定(24)
		学習心理学	1・2後		2			1					
		音響・聴覚心理学	2・3前		2			1		1			○教育課程の充実を図るため教員を追加(25) 若松直樹(准教授) 平成24年8月 教員審査済み 判定可(25) ○佐藤拓(講師)が退職したため、教員の配置変更。 平成24年6月 教員審査提出予定(24)
		神経心理学	2・3通 2・3後 2・3前		2				1			兼 1	○兼任教員の都合により教員配置の変更。後任は松田崇(兼任)(24) ○兼任教員に都合により開講時期を後期から通年に変更(24) ○杉下守弘(教授)が退職したため、教員の配置変更。後任は相場恵美子(非常勤)(23)
		小計(36科目)											
専門分野	言語聴覚障害学	1後 1前	2			1		1				○教育の充実を図るため、教員の配置変更。 倉智雅子(教授) 平成23年1月 教員審査済み 判定可(23)	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門分野	言語聴覚障害学	言語聴覚障害診断学	2前	2			1					○岩田まな（教授）が退職したため、教員の配置変更。 倉智雅子（教授） 平成23年8月 教員審査済 判定可（24） ○時間割編成における開講時期の変更（24）
			2後									○岩田まな（教授）が退職したため、教員の配置変更。後任調整中（23）
		言語学	3前 3後	2			1					○時間割編成における開講時期の変更（24） 道関京子（教授） 平成24年1月 教員審査済 判定可（24）
		音声学	2後 2通	2			1					○教育の充実を図るため、教員の配置変更。及び開講次期を通年から後期へ変更。 道関京子（教授） 平成24年1月 教員審査済 判定可（24）
	失語・高次脳機能障害学	言語医学	1後	1			1					
		失語症学	2前 2通	1			2 +					○時間割編成における開講時期の変更（24） 道関京子（教授） 平成24年1月 教員審査済 判定可（24）
		高次脳機能障害学各論	3前	1			1					
		高次脳機能障害学実習	3後 3通	1			1			1		○時間割編成における開講時期の変更（24）
	言語発達障害学	言語発達学	2後 2前	1							兼 1	○兼任教員急死のため教員配置の変更。後任調整中（25） ○兼任教員の都合により教員配置の変更。後任は白石希美子（兼任）（24） ○兼任教員に都合により開講時期を前期から後期に変更（24）
		言語発達障害学概論	2後	2							兼 1	○兼任教員急死のため教員配置の変更。後任調整中（兼任）（25） ○兼任教員の都合により教員配置の変更。後任は白石希美子（兼任）（24）
		言語発達障害学各論Ⅰ（MR・自閉症）	3前	2			+		1			○岩田まな（教授）が退職したため、教員の配置変更。 和田有子（講師） 平成23年8月 教員審査済 判定可（24） ○岩田まな（教授）が退職したため、教員の配置変更。後任調整中（23）
		言語発達障害学各論Ⅱ（CP・その他）	3前	1			+		1			○岩田まな（教授）が退職したため、教員の配置変更。 和田有子（講師） 平成23年8月 教員審査済 判定可（24） ○岩田まな（教授）が退職したため、教員の配置変更。後任調整中（23）
		言語発達障害学実習	3後 3通	1			+				1	○時間割編成における開講時期の変更（24） ○岩田まな（教授）が退職したため、教員の配置変更。後任調整中（23）
	発声発語・嚥下障害学	音声医学	1後	1			1					
		形成外科学	2前	1							兼 1	○教員の都合により佐藤舜也に変更（25）
臨床歯科医学		2前	1			1						
音声障害学		3後 3前	1			1					○時間割編成における開講時期の変更（24）	
運動障害性構音障害学		3前	2			1					○時間割編成における開講時期の変更（24） 道関京子（教授） 平成24年1月 教員審査済 判定可（24）	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門分野	発声発語・嚥下障害学	器質・機能的構音障害学	3前	1								兼1	○兼任教員の都合により教員配置の変更。後任は中嶋敏子（兼任）(25) ○兼任教員の都合により教員配置の変更。後任は磯野信策（兼任）(24) 山下夕香里 ○時間割編成における開講時期の変更（24） ○教育の充実を図るため、教員の配置変更。後任は糟谷政代（非常勤）(23)
		吃音	3前 3後	1								兼1	○時間割編成における開講時期の変更（24）
		呼吸リハビリテーション学	3前	1			1						
		摂食・嚥下障害学各論	3前	1			1						
		摂食・嚥下障害学実習	3後	1			1			1			
	聴覚障害学	聴覚医学	1後	1			1						
		耳鼻咽喉科学	2前	1			1						
		小児聴覚障害学	2前	1								兼1	
		成人聴覚障害学	2前 2後	1								兼1	○時間割編成における開講時期の変更（24）
		補聴器・人工内耳	3前 3後	2								兼1	○時間割編成における開講時期の変更（24）
		聴力検査法	3前	2			1						
	聴力検査実習	3後	1			1			1				
	臨床実習	臨床見学実習	1後	1			3 2 3	1	1	3 2	2		○教育課程の充実を図るため専任教員を追加 高橋圭三（助教） 平成24年1月 教員審査済 判定可（25） ○岩田まな（教授）が退職したため、教員の配置変更。 道関京子（教授） 平成24年1月 教員審査済 判定可（24） ○岩田まな（教授）が退職したため、教員の配置変更。（23）
		基礎実習	2後	1			3 2 3	1	1	3 2	2		○教育課程の充実を図るため専任教員を追加 高橋圭三（助教） 平成24年1月 教員審査済 判定可（25） ○岩田まな（教授）が退職したため、教員の配置変更。 道関京子（教授） 平成24年1月 教員審査済 判定可（24） ○岩田まな（教授）が退職したため、教員の配置変更。（23）
		臨床評価実習	3後	4			3 2 3	1	1	3 2	2		○教育課程の充実を図るため専任教員を追加 高橋圭三（助教） 平成24年1月 教員審査済 判定可（25） ○岩田まな（教授）が退職したため、教員の配置変更。 道関京子（教授） 平成24年1月 教員審査済 判定可（24） ○岩田まな（教授）が退職したため、教員の配置変更。（23）
		臨床総合実習	4前	8			3 2 3	1	1	3 2	2		○教育課程の充実を図るため専任教員を追加 高橋圭三（助教） 平成24年1月 教員審査済 判定可（25） ○岩田まな（教授）が退職したため、教員の配置変更。 道関京子（教授） 平成24年1月 教員審査済 判定可（24） ○岩田まな（教授）が退職したため、教員の配置変更。（23）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門分野	特論	言語聴覚学演習Ⅰ（基礎）	4通	2			1		2	2	
		言語聴覚学演習Ⅱ（専門）	4通	2		1			2	2	
		言語聴覚学演習Ⅲ（臨床）	4通	2				1	2		
		卒業研究	4通	2		15 16	2 3		4	2	濱出茂治（教授） 平成23年1月 教員審査済 判定可（23） ○杉下守弘（教授）、岩田まな（教授）が退職したため、教員の配置変更。後任調整中（23） ○齋藤信夫（准教授）が辞退したため、教員の配置変更。後任未定（22）
小計（38科目）											

- (注) ・ 認可申請書の様式第2号（その2の1）に準じて作成してください。
- ・ 設置認可時の授業科目全て（兼任、兼担教員が担当する科目を含む。）を黒字で記載してください。その上で、前年度報告時（平成24年度に認可された大学等は設置認可時）より変更されているものは赤字見え消し修正し、「備考」に赤字で理由・変更年月等を記入してください。
 - ・ なお、昨年度の報告書において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 兼任、兼担の教員が担当する授業科目については、備考欄に担当する教員数を「兼〇」と記入してください。
 - ・ 授業科目を追加又は内容を変更する場合で、専任教員が担当するため教員審査が必要なものについては、「専任教員採用等設置計画変更書」の審査年月等を「備考」に記入してください。（今後審査を受ける場合には、「平成〇年〇月 提出予定」と記入してください。）
 - ・ 「配当年次」について、設置認可申請時に開講時期を記入する必要がなかった学部等（平成19年度認可以前）についても、設置認可時の状況を黒字で記入してください。また、前年度報告時より修正があれば、赤字で見え消し修正をしてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても記入してください。

(2) 授業科目数

認可時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計	必修	選択	自由	計	
科目	科目	科目	科目	科目	科目	科目	科目	
57	43	0	100	59	41	0	100	
				[2]	[Δ2]	[0]	[0]	

- (注) ・ 未開講である場合や、配当年次に関わらず、教育課程上の授業科目数を記入する（資格に関する課程など、別課程としている授業科目については算入する必要はありません。）とともに、[] 内に、設置認可時の計画からの増減を記入してください。（記入例：1科目減の場合：Δ1）

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあった授業科目が配当年次に達しているにも関わらず, 何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお, 理由については可能な限り具体的に記入してください。
 ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については, 記入しないでください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり, 何らかの理由で廃止(教育課程から削除)した授業科目について記入してください。なお, 理由については可能な限り具体的に記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

なし

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

〈理学療法学専攻〉

$$\frac{\text{未開講科目と廃止科目の計}}{\text{認可時の計画の授業科目数の計}} = \boxed{0}$$

〈言語聴覚学専攻〉

$$\frac{\text{未開講科目と廃止科目の計}}{\text{認可時の計画の授業科目数の計}} = \boxed{0}$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て, 小数点第2位までを記入してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備 考				
(1) 校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	校舎敷地と運動場用地 までの距離 5km・車利用約7分				
	校舎敷地	8,764.81㎡	㎡	㎡	8,764.81㎡					
	運動場用地	5,000.00㎡	㎡	㎡	5,000.00㎡					
	小 計	13,764.81㎡	㎡	㎡	13,764.81㎡					
	そ の 他	2,261.47㎡	㎡	㎡	2,261.47㎡					
	合 計	16,026.28㎡	㎡	㎡	16,026.28㎡					
(2) 校 舎	専 用	7,028.75㎡ 7,046.39㎡ (2,402.77㎡)	0㎡	共用する他の 学校等の専用 0㎡ (865.10 ㎡)	計 7,028.75㎡ 7,046.39㎡ 7,028.75㎡ (7,046.39㎡)	共有校舎の玄関棟88.82㎡が 71.18㎡に変更となった為に、全 体の校舎面積が増減となった。 これは建築計画と登記上面積の 誤差によるもの(22)				
	共 用	3,760.88㎡ (3,778.52㎡)								
(3) 教 室 等	講 義 室	13室	演 習 室	7室	実験実習室	12室	情報処理学習施設	1室 (補助職員 1人)	語学学習施設	1室 (補助職員 1人)
	新設学部等の名称		医療学部		室 数		26		室	
(4) 専任教員研究室	医療学部				26				(例) 平成25年4月 専任教授1名を新規 採用のため(25)	
	(5) 新設学部等の 名称	図 書	学術雑誌	電子ジャーナル	視聴覚資料	機械・器具	標 本	図書費には電子ジャーナル・データベースの整備費(運用コスト)を含む。		
		[うち外国書]	[うち外国書]	[うち外国書]	点	点	点	学生の学修や知的好奇心の増進に資する為、学術雑誌の和書及び事典等を増加した(22)		
		冊	種	種				学生の学修や知的好奇心の増進に資する為、蔵書を増加した。電子ジャーナル数の減少については、学生、教員の利用頻度、希望を勘案し、より使用しやすい環境を整えたため。(24)		
医療学部	25,000 [3,000] (26,344 [1,810]) -22,670 [-1,217]- -21,000 [-1,207]-	50 [17] (88 [29]) (88 [29]) -50 [-17]-	60 [56] (34 [24]) (34 [24]) -40 [-36]-	650 600 (596)	2,900 2,884 (2,840)	100 63 (61)				
計	25,000 [3,000] (26,344 [1,810]) -22,670 [-1,217]- -21,000 [-1,207]-	50 [17] (88 [29]) (88 [29]) -50 [-17]-	60 [56] (34 [24]) (34 [24]) -40 [-36]-	650 600 (596)	2,900 2,884 (2,840)	100 63 (61)				
(6) 図 書 館	面 積		閱 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数					
	470.17㎡		90		80,000冊					
(7) 体 育 館	面 積		体育館以外のスポーツ施設の概要				建築計画と登記上面積の誤差による変更(22)			
	338.27㎡ 341.00㎡		—				—			
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	設備購入費は契約締結及び購入、支払いが当初計画より変更があった為(22)	
		教員1人当り研究費等	300千円	300千円	図書購入費	5,355千円	8,000千円	8,000千円		
	共同研究費等	1,500千円	3,000千円	設備購入費	40,323千円 41,861千円	41,581千円 39,898千円	2,000千円			
	学生1人当り納付金	第1年次 1,750千円	第2年次 1,400千円	第3年次 1,400千円	第4年次 1,400千円	第5年次 千円	第6年次 千円			
	学生納付金以外の維持方法の概要	私立大学等経常経費補助金、雑収入等								

(注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)

- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
- ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には平成25年5月1日現在の数値を記入してください
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(25)」を「備考」に赤字で記入してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
- ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。

4 既設大学等の状況

大学 の 名 称	新潟リハビリテーション大学								備 考
既設学部等の名称	修業 年限	入 学 定 員	編入学 定 員	収 容 定 員	学位又 は称号	定 員 超 過 率	開 設 年 度	所 在 地	平成25年4月1日 より作業療法学 専攻を開設
医療学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻 作業療法学専攻 言語聴覚学専攻	4年	120人 80人 40人 40人	年次 人	480人 320人	学士	0.95倍 0.93倍	H22	新潟県村上市 上の山2-16	
リハビリテーション研究科	2年	12名	年次 人	24人	修士	0.20倍 0.33倍	H19	新潟県村上市 上の山2-16	
大学 の 名 称	〇 〇 短 期 大 学								備 考
既設学部等の名称	修業 年限	入 学 定 員	編入学 定 員	収 容 定 員	学位又 は称号	定 員 超 過 率	開 設 年 度	所 在 地	
該当なし	年	人	年次 人	人		倍			

(注) ・ 本調査の対象となっている大学等の設置者(学校法人等)が設置している全ての大学(学部, 学科)大学院(専攻)及び短期大学(学科)について, それぞれの学校種ごとに, 平成25年5月1日現在の
上記項目の情報を記入してください。その際, AC対象学部学科等についても当該様式に記入してくだ
さい。(ただし, 専攻科に係るものについては, 記入する必要はありません。)

- ・ 「定員超過率」には, 標準修業年限に相当する期間における入学定員に対する入学者の割合の
平均の小数点第2位まで(小数点第3位を切り捨て)を, 学科(短期大学において専攻課程を設置
している場合には, 専攻課程)単位で記入してください。
- ・ 学生募集を停止している学部等がある場合, 入学定員と収容定員は「-」とし, 「備考」に「平成
〇年より学生募集停止」と記入してください。

5 教員組織の状況

<医療学部 リハビリテーション学科>

(1) 担当教員表

認可時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
専	教授	大澤源吾(78)	平成22年4月	臨床倫理学 医学概論 内科学 呼吸リハビリテーション学 卒業研究						
専	教授(専攻長)	佐藤舜也(75)	平成22年4月	フレッシュマンセミナーⅡ(応用) 整形外科学 卒業研究	専	教授(専攻長)	佐藤舜也(76)	平成22年4月	フレッシュマンセミナーⅡ(応用) 基礎運動学概論 基礎運動学各論 整形外科学 臨床運動学 理学療法技術学Ⅱ(運動器) 卒業研究	平成22年1月教員審査済 基礎運動学概論 基礎運動学各論 臨床運動学 理学療法技術学Ⅱ(運動器) 判定可
					兼任	講師	佐藤舜也(77)	平成24年4月	基礎運動学概論 基礎運動学各論 整形外科学 臨床運動学 理学療法技術学Ⅱ(運動器) 形成外科学	平成24年3月 佐藤舜也教授辞任のため 平成24年度より継続して兼任教員として受け持つ。 フレッシュマンセミナーⅡ(応用)、卒業研究は複数担当のため、支障はない。(24)
					専	助教	佐々木理恵子(31)	平成22年4月	理学療法技術学Ⅱ(運動器)	兼任教員辞任のため、平成25年4月より担当教員の変更(25) 平成24年1月教員審査済 「理学療法技術学Ⅱ(運動器)」 判定可(25)
専	教授	真貝富夫(69)	平成22年4月	フレッシュマンセミナーⅡ(応用) 生理学 神経生理学 生理学実習 卒業研究	専	教授	山村千絵(50)	平成22年4月	生理学実習	平成23年1月 教員審査 済 生理学実習 判定可
					兼任	講師	真貝富夫(71)	平成24年4月	生理学	平成24年3月 真貝富夫教授辞任のため 平成24年度より継続して兼任教員として受け持つ。 フレッシュマンセミナーⅡ(応用)、卒業研究は複数担当のため、支障はない。(24)
					兼任	講師	黒瀬雅之(38)	平成24年4月	神経生理学 生理学実習	平成24年3月 真貝富夫教授辞任のため 平成24年度より担当者の変更(24)
					兼任	講師	山村健介(46)	平成24年4月	神経生理学	平成24年3月 真貝富夫教授辞任のため 平成24年度より担当者の変更(24)
					兼任	講師	北川純一(44)	平成24年4月	生理学実習	平成24年3月 真貝富夫教授辞任のため 平成24年度より担当者の変更(24) 平成25年4月兼任教員辞任(25)
専	教授	熊木克治(69)	平成22年4月	フレッシュマンセミナーⅡ(応用) 解剖学Ⅰ(総論) 解剖学Ⅱ(各論) 解剖学実習 卒業研究						
専	教授	遠藤文雄(68)	平成22年4月	フレッシュマンセミナーⅡ(応用) 老年期理学療法学 義肢・装具学 地域リハビリテーション論 臨床見学実習 基礎実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ(評価・治療) 臨床総合実習Ⅱ(総括) 卒業研究	専	助教	高橋裕二(38)	平成23年10月	老年期理学療法学	教育課程の充実を図るため専任教員を追加した。 平成23年6月教員審査済 老年期理学療法学 判定可(24)
					専	教授	遠藤文雄(70)	平成22年4月	生活環境論	平成24年1月教員審査済 「生活環境論」判定可(25)

認可時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
専	教授	高橋洋(62)	平成24年4月	フレックスマネジメントⅡ(応用) 基礎運動療法 呼吸器疾患理学療法 循環器疾患理学療法 代謝系疾患理学療法 理学療法技術Ⅱ(運動器) 臨床見学実習 基礎実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ(評価・治療) 臨床総合実習Ⅱ(総括) 卒業研究	専	教授	高橋洋(63)	平成24年4月	フレックスマネジメントⅡ(応用) 中枢神経疾患理学療法実習 呼吸器疾患理学療法 代謝系疾患理学療法 臨床見学実習 基礎実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ(評価・治療) 臨床総合実習Ⅱ(総括) 卒業研究	平成22年1月 教員審査 済 中枢神経疾患理学療法実習 判定 可
専	教授	灰田信英(60)	平成23年4月	フレックスマネジメントⅡ(応用) 基礎運動学各論 運動学実習 動作解析学実習 理学療法評価学 臨床見学実習 基礎実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ(評価・治療) 臨床総合実習Ⅱ(総括) 卒業研究	専	教授	灰田信英(61)	平成23年4月	フレックスマネジメントⅡ(応用) 運動学実習 理学療法概論 基礎運動療法 動作解析学実習 理学療法評価学* 臨床見学実習 基礎実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ(評価・治療) 臨床総合実習Ⅱ(総括) 卒業研究	平成22年1月 教員審査 済 理学療法概論 基礎運動療法 理学療法評価学* 判定 可 就任年度変更(灰田信英) 平成21年10月の設置認可時は、平成23年4月に就任する予定であった。その後、本人より平成22年4月に就任をしたいとの申し出があったため、平成22年1月の教員審査では、平成22年4月に就任する承諾書を提出し、教員審査を受けた(審査科目「理学療法概論」「理学療法評価学」「基礎運動療法」 判定:可)。しかし、現職の諸事情により、退職が困難となり、設置認可時の計画通り平成23年4月に就任予定となった。 平成22年度開講科目の「理学療法概論」「理学療法評価学」は今年度限り兼任にて担当する。(22)
					専	教授	灰田信英(62)	平成23年4月	フレックスマネジメントⅡ(応用) 動作解析学実習 理学療法評価学* 臨床見学実習 基礎実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ(評価・治療) 臨床総合実習Ⅱ(総括) 卒業研究	教育の充実を図るため教員の配置変更 「基礎理学療法学」(濱出茂治教授) 「運動学実習」(浅海岩生教授)に変更 (23)
専	教授	浅海岩生(56)	平成22年4月	フレックスマネジメントⅡ(応用) 臨床運動学 物理療法 物理療法実習 臨床見学実習 基礎実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ(評価・治療) 臨床総合実習Ⅱ(総括) 卒業研究	専	教授	浅海岩生(56)	平成22年4月	フレックスマネジメントⅡ(応用) 基礎理学療法 物理療法実習 臨床見学実習 基礎実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ(評価・治療) 臨床総合実習Ⅱ(総括) 卒業研究	平成22年1月 教員審査 済 基礎理学療法 判定 可
					専	教授	浅海岩生(57)	平成22年4月	フレックスマネジメントⅡ(応用) 基礎理学療法 運動学実習 物理療法実習 臨床見学実習 基礎実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ(評価・治療) 臨床総合実習Ⅱ(総括) 卒業研究	平成23年1月 教員審査 済 理学療法評価学 運動学実習 判定 可 理学療法評価学は教員審査判定可であったが、当初の予定通り高橋邦彦教授、灰田信英教授のオムニバスによって開講する。(23)

認可時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
専	教授	石塚和重(55)	平成24年4月	フレッシュメンターⅡ(応用) 発達障害心理学療法 理学療法技術学Ⅰ(中核) 臨床見学実習 基礎実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ(評価・治療) 臨床総合実習Ⅱ(総括) 卒業研究	専	教授	石塚和重(56)	平成24年4月	フレッシュメンターⅡ(応用) 臨床見学実習 基礎実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ(評価・治療) 臨床総合実習Ⅱ(総括) 卒業研究	平成23年7月5日 石塚和重教授辞任(23) フレッシュメンターⅡ(応用) 臨床見学実習 基礎実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ(評価・治療) 臨床総合実習Ⅱ(総括) 卒業研究 複数担当教員のため支障ない(23)
専	准教授	齋藤信夫(50)	平成23年4月	フレッシュメンターⅡ(応用) 理学療法概論 基礎理学療法学 臨床見学実習 基礎実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ(評価・治療) 臨床総合実習Ⅱ(総括) 卒業研究	専任	教授	後任未定			就任辞退(齋藤信夫)→ 平成22年4月20日 一身上の都合による(母親の介護のため)→(22)後任として演出茂治教授就任(23)
					専任	教授	演出茂治(62)	平成23年4月	フレッシュマンセミナーⅠ(基礎) フレッシュマンセミナーⅡ(応用) 理学療法概論 基礎運動療法学 物理療法学 中枢神経疾患理学療法学 臨床見学実習 基礎実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ(評価・治療) 臨床総合実習Ⅱ(総括) 卒業研究	齋藤信夫准教授就任辞退のための後任教員(23)
					専任	教授	演出茂治(64)	平成23年4月	運動器疾患理学療法学	平成24年1月教員審査済 「運動器疾患理学療法学」 判定可(25)
専	准教授	的場巳知子(46)	平成22年4月	フレッシュメンターⅡ(応用) 精神医学 卒業研究						
専	講師	平田恒彦(71)	平成22年4月	フレッシュメンターⅡ(応用) 生物科学 感染症学 卒業研究	専	講師	平田恒彦(72)	平成22年4月	フレッシュメンターⅠ(基礎) フレッシュメンターⅡ(応用) 生物科学 感染症学 卒業研究	平成23年1月 教員審査 済 フレッシュマンセミナーⅠ(基礎) 判定可 平成24年5月31日 平田恒彦講師辞任(24) 生物化学 感染症学 平成25年度より上記の科目を継続して兼任教員として受け持つ。(25) フレッシュメンターⅠ(基礎) フレッシュメンターⅡ(応用) 卒業研究 他に担当教員がいるため支障ない(25)
専	助教	松林義人(32)	平成22年4月	フレッシュメンターⅠ(基礎) フレッシュメンターⅡ(応用) 理学療法評価学 理学療法評価学実習 理学療法評価学演習 基礎運動学概論 日常生活活動学 日常生活活動学実習 神経・筋疾患理学療法学 生体環境論 臨床見学実習 基礎実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ(評価・治療) 臨床総合実習Ⅱ(総括) 卒業研究	専	助教	松林義人(33)	平成22年4月	フレッシュメンターⅠ(基礎) フレッシュメンターⅡ(応用) 理学療法評価学実習 理学療法評価学演習 日常生活活動学実習 神経・筋疾患理学療法学 臨床見学実習 基礎実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ(評価・治療) 臨床総合実習Ⅱ(総括) 卒業研究	
専	助教	佐々木理恵子(28)	平成22年4月	フレッシュメンターⅠ(基礎) フレッシュメンターⅡ(応用) 運動器疾患理学療法学実習 健康増進理学療法学 臨床見学実習 基礎実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ(評価・治療) 臨床総合実習Ⅱ(総括) 卒業研究	専	助教	佐々木理恵子(29)	平成22年4月	フレッシュメンターⅠ(基礎) フレッシュメンターⅡ(応用) 運動器疾患理学療法学実習 健康増進理学療法学 臨床見学実習 基礎実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ(評価・治療) 臨床総合実習Ⅱ(総括) 卒業研究	
					専	助教	佐々木理恵子(31)	平成22年4月	理学療法技術学Ⅱ(運動器)	平成24年1月教員審査済 「理学療法技術学Ⅱ(運動器)」 判定可(25)

認可時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
					専	助教	星野 浩通 (36)	平成25年4月	プレジデントセミナーⅠ(基礎) プレジデントセミナーⅡ(応用) 生理学実習 臨床見学実習 基礎実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ(評価・治療) 臨床総合実習Ⅱ(総括) 卒業研究	平成25年1月教員審査済 「プレジデントセミナーⅠ(基礎)」 「プレジデントセミナーⅡ(応用)」 「生理学実習」 「臨床見学実習」 「基礎実習」 「臨床評価実習」 「臨床総合実習Ⅰ(評価・治療)」 「臨床総合実習Ⅱ(総括)」 「卒業研究」 判定可(25)
専	教授(副学長)	杉下守弘 (66)	平成22年4月	臨床心理学* 神経心理学 卒業研究	専	教授(副学長)	杉下守弘 (67)	平成22年4月	臨床心理学* 神経心理学 卒業研究	退職(杉下守弘) 平成23年4月30日 一身上の都合による(23)
専	教授(学部長(学部長))	高橋邦丕 (62)	平成22年4月	プレジデントセミナーⅠ(基礎) プレジデントセミナーⅡ(応用) 臨床神経学 リハビリテーション医学 リハビリテーション概論 音声医学 聴覚医学 耳鼻咽喉科学 聴力検査法 聴力検査実習 卒業研究	専	教授(学部長(学部長))	高橋邦丕 (63)	平成22年4月	プレジデントセミナーⅠ(基礎) プレジデントセミナーⅡ(応用) 理学療法評価学* 理学療法技術学Ⅰ(中核) 臨床神経学 リハビリテーション医学 リハビリテーション概論 音声医学 聴覚医学 耳鼻咽喉科学 聴力検査法 聴力検査実習 卒業研究	平成22年1月 教員審査 済 理学療法評価学* 理学療法技術学Ⅰ(中核) 判定可
専	教授	山村千絵 (49)	平成22年4月	プレジデントセミナーⅡ(応用) 摂食・嚥下障害学概論 摂食・嚥下障害学各論 摂食・嚥下障害学実習 卒業研究	専	教授	山村千絵 (50)	平成22年4月	プレジデントセミナーⅡ(応用) 生理学実習 摂食・嚥下障害学概論 摂食・嚥下障害学各論 摂食・嚥下障害学実習 卒業研究	平成23年1月 教員審査 済 生理学実習 判定可
専	教授(学長)	野田忠 (68)	平成22年4月	プレジデントセミナーⅡ(応用) 臨床歯科医学 卒業研究						
専	教授	伊林克彦 (62)	平成22年4月	プレジデントセミナーⅡ(応用) 高次脳機能障害学概論 認知症 言語聴覚学演習Ⅱ(専門) 言語医学 失語症学 高次脳機能障害学各論 高次脳機能障害学実習 臨床見学実習 基礎実習 臨床評価実習 臨床総合実習 卒業研究						
専	教授	岩田まな (62)	平成22年4月	プレジデントセミナーⅡ(応用) 言語聴覚障害学診断学 言語発達障害学各論Ⅰ(MR・自閉症) 言語発達障害学各論Ⅱ(OP・その他) 言語発達障害学実習 臨床見学実習 基礎実習 臨床評価実習 臨床総合実習 卒業研究	専	教授	岩田まな (63)	平成22年4月	プレジデントセミナーⅡ(応用) 言語聴覚障害学診断学 言語発達障害学各論Ⅰ(MR・自閉症) 言語発達障害学各論Ⅱ(OP・その他) 言語発達障害学実習 臨床見学実習 基礎実習 臨床評価実習 臨床総合実習 卒業研究	退職(岩田まな) 平成23年3月31日 一身上の都合による(23) 言語発達障害学実習 臨床見学実習 基礎実習 臨床評価実習 臨床総合実習 卒業研究 他に担当教員がいるため支障なし(24)
					専	講師	和田有子 (46)	平成22年4月	言語発達障害学各論Ⅰ(MR・自閉症) 言語発達障害学各論Ⅱ(OP・その他)	平成23年3月 岩田まな教授辞任のため 平成23年8月 教員審査 済 言語発達障害学各論Ⅰ(MR・自閉症) 言語発達障害学各論Ⅱ(OP・その他) 判定可(24)
専	教授	倉智雅子 (50)	平成22年4月	プレジデントセミナーⅡ(応用) 英語Ⅰ(初級) オーラルコミュニケーションⅠ(初級) 医療英文抄訳法 音声障害学 臨床見学実習 基礎実習 臨床評価実習 臨床総合実習 卒業研究	専	教授	倉智雅子 (51)	平成22年4月	プレジデントセミナーⅡ(応用) 英語Ⅰ(初級) オーラルコミュニケーションⅠ(初級) 医療英文抄訳法 言語聴覚障害学総論 音声障害学 臨床見学実習 基礎実習 臨床評価実習 臨床総合実習 卒業研究	平成23年1月 教員審査 済 言語聴覚障害学総論 判定可
					専	教授	倉智雅子 (52)	平成22年4月	言語聴覚障害学診断学	平成24年8月 教員審査 済 「言語聴覚障害学診断学」 判定可

認可時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
専	准教授	宮岡里美(51)	平成22年4月	フレッシュマニターⅡ(応用) 心理学概論 生涯発達心理学 栄養学 食の心理学 心理学実験演習 学習心理学 健康心理学 言語聴覚学演習Ⅰ(基礎) 臨床見学実習 基礎実習 臨床評価実習 臨床総合実習 卒業研究						
専	准教授	加藤豊広(46)	平成22年4月	フレッシュマニターⅠ(基礎) フレッシュマニターⅡ(応用)						
専	講師	和田有子(43)	平成22年4月	フレッシュマニターⅡ(応用) 小児科学 卒業研究	専	講師	和田有子(44)	平成22年4月	フレッシュマニターⅡ(応用) 小児科学 発達障害心理学療法学 卒業研究	平成22年1月 教員審査 済 発達障害心理学療法学 判定 可
					専	講師	和田有子(45)	平成22年4月	フレッシュマニターⅠ(基礎) フレッシュマニターⅡ(応用) 小児科学 発達障害心理学療法学 卒業研究	平成23年1月 教員審査 済 フレッシュマニターⅠ(基礎) 判定 可
専	講師	黒須敦子(41)	平成22年4月	フレッシュマニターⅡ(応用) 言語聴覚障害学総論 言語聴覚学演習Ⅲ(臨床) 臨床見学実習 基礎実習 臨床評価実習 臨床総合実習 卒業研究	専	講師	黒須敦子(42)	平成22年4月	フレッシュマニターⅡ(応用) 言語聴覚学演習Ⅲ(臨床) 臨床見学実習 基礎実習 臨床評価実習 臨床総合実習 卒業研究	教育の充実を図るため教員の配置変更 「言語聴覚障害学総論」(倉智雅子教授)に変更(23) 平成24年8月31日 黒須敦子教授辞任(24) フレッシュマニターⅡ(応用) 言語聴覚学演習Ⅲ(臨床) 臨床見学実習 基礎実習 臨床評価実習 臨床総合実習 卒業研究 複数担当教員のため支障ない(24)
専	講師	佐藤拓(30)	平成22年4月	フレッシュマニターⅡ(応用) 行動科学概論 対人関係論 情報処理演習 臨床心理学※ 社会心理学 音響・聴覚心理学 児童心理学 心理学実験演習 心理測定法 認知心理学 卒業研究	専	講師	佐藤拓(31)	平成22年4月	フレッシュマニターⅠ(基礎) フレッシュマニターⅡ(応用) 行動科学概論 対人関係論 情報処理演習 臨床心理学 社会心理学 音響・聴覚心理学 児童心理学 心理学実験演習 認知心理学 卒業研究	平成23年1月 教員審査 済 フレッシュマンセミナーⅠ(基礎) 判定 可 平成24年3月 佐藤拓講師辞任(24) 行動科学概論 心理測定法 音響・聴覚心理学 平成24年度より上記の科目を継続して兼任教員として受け持つ。 フレッシュマンセミナーⅠ(基礎) フレッシュマンセミナーⅡ(応用) 卒業研究 他に担当教員がいるため支障なし。 対人関係論 情報処理演習 臨床心理学 社会心理学 児童心理学 心理学実験演習 認知心理学 後任予定者、平成24年度6月審査予定。(24)
					専	准教授	若松直樹(49)	平成24年9月	フレッシュマニターⅠ(基礎) フレッシュマニターⅡ(応用) 行動科学概論 対人関係論 情報処理演習 臨床心理学 音響・聴覚心理学 心理学実験演習 心理測定法 卒業研究	佐藤拓講師辞任に伴う後任教員 平成24年8月 教員審査 済 「フレッシュマンセミナーⅠ(基礎)」 「フレッシュマンセミナーⅡ(応用)」 「行動科学概論」 「対人関係論」 「臨床心理学」 「音響・聴覚心理学」 「心理学実験演習」 「心理測定法」 「卒業研究」 平成25年1月 教員審査 済 「情報処理演習」 判定 可 (25)

認可時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
専	助教	櫻井晶 (29)	平成22年4月	フレッシュマンセミナーⅠ(基礎) フレッシュマンセミナーⅡ(応用) 解剖学実習 生理学実習 言語聴覚学演習Ⅰ(基礎) 言語聴覚学演習Ⅱ(専門) 言語聴覚学演習Ⅲ(臨床) 高次脳機能障害実習 言語発達障害学実習 臨床見学実習 基礎実習 臨床評価実習 臨床総合実習						
専	助教	田村裕 (27)	平成22年4月	フレッシュマンセミナーⅠ(基礎) フレッシュマンセミナーⅡ(応用) 解剖学実習 生理学実習 言語聴覚学演習Ⅰ(基礎) 言語聴覚学演習Ⅱ(専門) 言語聴覚学演習Ⅲ(臨床) 摂食・嚥下障害学実習 聴力検査実習 臨床見学実習 基礎実習 臨床評価実習 臨床総合実習						
					専	助教	高橋 圭三	平成25年4月	フレッシュマンセミナーⅠ(基礎) フレッシュマンセミナーⅡ(応用) 生理学実習 臨床見学実習 基礎実習 臨床評価実習 臨床総合実習	平成25年1月教員審査済 「フレッシュマンセミナーⅠ(基礎)」 「フレッシュマンセミナーⅡ(応用)」 「生理学実習」 「臨床見学実習」 「基礎実習」 「臨床評価実習」 「臨床総合実習」 判定可(25)
兼任	講師	大場喜代司 (72)	平成22年4月	地域文化論	兼任	講師	吉川 雄次 (68)	平成25年4月	地域文化論	平成25年3月 兼任教員辞任のため、 平成25年度より担当者の変更(25) 教育の充実を図るため兼任教員を追加 平成24年より担当教員の追加(24)
兼任	講師	小柳茂美 (49)	平成22年4月	社会学						
兼任	講師	山岸宏政 (75)	平成22年4月	経営学	兼任	講師	高津 斌彰 (71)	平成25年4月	経営学	平成25年3月 兼任教員辞任のため、 平成25年度より担当者の変更(25) 教育の充実を図るため兼任教員を追加 平成24年より担当教員の追加(24)
兼任	講師	平井孝 (80)	平成22年4月	法学						
兼任	講師	八木稔 (57)	平成22年4月	統計学						

認可時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
兼任	講師	栗生明 (62)	平成22年4月	地域環境学	兼任	講師	竹内 裕	平成25年4月	地域環境学	平成25年3月 兼任教員辞任のため、平成25年度より担当者の変更(25)
					兼任	講師	大西 敏	平成25年4月	地域環境学	平成25年3月 兼任教員辞任のため、平成25年度より担当者の変更(25)
					兼任	講師	田嶋 雄洋	平成25年4月	地域環境学	平成25年3月 兼任教員辞任のため、平成25年度より担当者の変更(25)
					兼任	講師	佐藤 義信	平成25年4月	地域環境学	平成25年3月 兼任教員辞任のため、平成25年度より担当者の変更(25)
					兼任	講師	田村 富夫	平成25年4月	地域環境学	平成25年3月 兼任教員辞任のため、平成25年度より担当者の変更(25)
					兼任	講師	建部 昌文	平成25年4月	地域環境学	平成25年3月 兼任教員辞任のため、平成25年度より担当者の変更(25)
					兼任	講師	片岡 昌幸	平成25年4月	地域環境学	平成25年3月 兼任教員辞任のため、平成25年度より担当者の変更(25)
					兼任	講師	加藤 誠一	平成25年4月	地域環境学	平成25年3月 兼任教員辞任のため、平成25年度より担当者の変更(25)
					兼任	講師	志田 淳一	平成25年4月	地域環境学	平成25年3月 兼任教員辞任のため、平成25年度より担当者の変更(25)
兼任	講師	竹内 和広	平成25年4月	地域環境学	平成25年3月 兼任教員辞任のため、平成25年度より担当者の変更(25)					
兼任	講師	小林敏志 (67)	平成22年4月	人間支援科学						
兼任	講師	小池幸雄 (68)	平成22年4月	物理学						
兼任	講師	小野敏子 (62)	平成22年4月	レクリエーション チーム医療学	兼任	講師	鈴木允 (78)	平成24年4月	レクリエーション	教育の充実を図るため兼任教員変更平成24年より担当教員の変更(24)
兼任	講師	岡野崇彦 (69)	平成22年4月	保健体育						
兼任	講師	山田修司 (38)	平成22年4月	情報処理技法						

認可時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
兼任	講師	Gerald Desrocher (50)	平成22年4月	英語Ⅲ(上級)	兼任	講師	Gerald Desrocher (51)	平成22年4月	英語Ⅱ(中級) 英語Ⅲ(上級) オーラルコミュニケーションⅡ(中級) オーラルコミュニケーションⅢ(上級)	英語Ⅲ、オーラルコミュニケーションⅡ・Ⅲの科目を追加した(22) 平成24年3月 Gerald Desrocher兼任教員辞任(24)
					兼任	講師	Sam Suleiman (51)	平成24年4月	英語Ⅰ(初級) 英語Ⅲ(上級) オーラルコミュニケーションⅠ(初級)	平成24年3月 Gerald Desrocher兼任教員辞任のため、平成24年度より担当者の変更(24) 教育の充実を図るため兼任教員を追加 平成24年より担当教員の追加(24)
					兼任	講師	梶浦麻子 (51)	平成24年4月	英語Ⅱ(中級) オーラルコミュニケーションⅡ(中級)	平成24年3月 Gerald Desrocher兼任教員辞任のため、平成24年度より担当者の変更(24)
					兼任	講師	Bill Moulinos (51)	平成24年4月	オーラルコミュニケーションⅢ(上級)	平成24年3月 Gerald Desrocher兼任教員辞任のため、平成24年度より担当者の変更(24)
					兼任	講師	Bill Moulinos (52)	平成25年4月	英語Ⅲ	教育の充実を図るため兼任教員を追加 平成25年度より担当教員を追加(25)
兼任	講師	大野智子 (48)	平成22年4月	英語Ⅲ(上級)					就任辞退(大野智子) 平成21年12月13日 本人都合の辞退により担当教員の変更(22)	
兼任	講師	Anja Hopf (43)	平成22年4月	オーラルコミュニケーションⅡ(中級) オーラルコミュニケーションⅢ(上級)					就任辞退(Anja Hopf) 平成21年12月10日 本人都合の辞退により担当教員の変更(22)	
兼任	講師	斎藤奨 (74)	平成22年4月	病理学概論						
兼任	講師	瀬尾憲司 (49)	平成22年4月	医療安全管理学						
兼任	講師	鈴木昭 (63)	平成22年4月	保健医療福祉制度論						
兼任	講師	土橋洋史 (55)	平成22年4月	薬理学						
兼任	講師	三ツ井敏明 (51)	平成22年4月	生化学						
兼任	講師	高田治実 (56)	平成22年4月	理学療法技術学Ⅲ(痛み)						
兼任	講師	鈴川仁人 (33)	平成22年4月	スポーツ障害管理療法学						
兼任	講師	佐藤成登志 (45)	平成22年4月	リハビリテーション工学						
兼任	講師	池田英喜 (46)	平成22年4月	言語学	専	教授	道関京子 (63)	平成24年4月	言語学	教育の充実を図るため専任教員の配置変更。 平成23年12月 教員審査 済 言語学 判定 可 (24)
兼任	講師	大平芳則 (48)	平成22年4月	音声学 成人聴覚障害学 補聴器・人工内耳	専	教授	道関京子 (63)	平成24年4月	音声学	教育の充実を図るため専任教員の配置変更。 平成23年12月 教員審査 済 言語学 判定 可 (24)
兼任	講師	入山満恵子 (35)	平成22年4月	言語発達学 言語発達障害学概論						
兼任	講師	渡辺好博 (81)	平成22年4月	形成外科学	兼任	講師	佐藤 舜也 (78)	平成25年4月	形成外科学	兼任教員辞任のため、平成25年4月より担当教員の変更(25)
兼任	講師	前新直志 (40)	平成22年4月	吃音						

認可時の計画					変更状況					備考
専任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
兼任	講師	西尾正輝(52)	平成22年4月	運動障害性構音障害学 器質・機能性構音障害学	兼任	講師	西尾正輝(53)	平成22年4月	器質・機能性構音障害学	教育の充実を図るため教員の配置変更「器質・機能性構音障害学」(粕谷政代講師)に変更(23)
					専	教授	道関京子(63)	平成24年4月	運動障害性構音障害学	教育の充実を図るため専任教員の配置変更平成23年12月 教員審査 済 運動障害性構音障害学 判定 可(24)
兼任	講師	星名信昭(69)	平成22年4月	小児聴覚障害学						
					兼任	講師	灰田信英(61)	平成22年4月	理学療法概論 理学療法評価学	就任年度の変更のため兼任教員として担当(22) 今年度より専任教員として担当(23)
					兼任	講師	椿淳裕(35)	平成24年4月	循環器疾患理学療法学	担当教員の追加(22)
					兼任	講師	高橋明美(50)	平成23年4月	日常生活活動学	担当教員の追加(22)
					兼任	講師	田中健(37)	平成23年4月	日常生活活動学	担当教員の追加(22)
					兼任	講師	糟谷政代(67)	平成23年4月	器質・機能性構音障害学	担当教員の追加(23) 平成24年3月 糟谷政代兼任教員辞任(24) 後任は山下夕香里兼任教員
					兼任	講師	中嶋 敏子(65)	平成25年4月	器質・機能性構音障害学	兼任教員辞任のため、平成25年4月より担当教員の変更(25)
					兼任	講師	鈴木弘樹(44)	平成23年4月	地域環境学	担当教員の追加(23) 平成25年3月より担当教員を辞任(25)
					兼任	講師	奥平与人(64)	平成23年4月	地域環境学	担当教員の追加(23) 平成25年3月より担当教員を辞任(25)
					兼任	講師	小野敏子(61)	平成23年4月	生活環境論	担当教員の追加(23) 教育の充実を図るため専任教員 遠藤文雄教授に配置変更。 平成23年12月 教員審査 済 生活環境論 判定 可(24)
					兼任	講師	児玉敏彦(38)	平成23年4月	生活環境論	
					兼任	講師	野澤繁(57)	平成23年4月	生活環境論	
					兼任	講師	原口裕希(31)	平成23年4月	生活環境論	
					兼任	講師	松尾真輔(37)	平成23年4月	生活環境論	
					兼任	講師	吉井真里(39)	平成23年4月	生活環境論	
					兼任	講師	相場恵美子(48)	平成23年4月	神経心理学	
					兼任	講師	松田 崇(53)	平成25年4月	神経心理学	兼任教員辞任のため 平成25年4月より担当教員の変更(25)
					兼任	講師	角張 慶子(37)	平成25年4月	児童心理学	兼任教員辞任のため 平成25年4月より担当教員の変更(25)
					兼任	講師	佐藤 卓也(45)	平成25年4月	認知心理学	兼任教員辞任のため 平成25年4月より担当教員の変更(25)
					兼任	講師	宮入 暁子(39)	平成25年4月	臨床運動学	兼任教員辞任のため 平成25年4月より担当教員の変更(25)
					兼任	講師	野本 規絵(39)	平成25年4月	基礎運動学概論	兼任教員辞任のため 平成25年4月より担当教員の変更(25)

(注) ・ 申請書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。

なお、当該設置に係る学部、学科等に所属しない教員であって、全学共通、学部共通などの授業科目を担当する教員組織に所属している場合は、(〇〇学部 △△学科)の箇所を「共通」とし、表を分けて作成してください。

・ 後任が決まっていない場合には、「後任未定」と記入してください。

- ・ 辞任者は「備考」に退職年月、氏名、理由を記入してください。
- ・ 年齢は、「設置時の計画」には当該学部等の就任時における満年齢を、「変更状況」には平成25年5月1日現在の満年齢を記入してください。
- ・ 教員を学年進行中に変更した又は変更する予定の場合（「新規採用」、「担当授業科目の変更」又は「昇格」をいう。）は、変更後の状況を記入するとともに、その理由、後任者が決まっていない場合は、「変更状況」の「氏名」に「後任未定」と記入し、及び今後の採用計画を「備考」に記入してください。
- ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（AC教員審査）を受けてください。AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
- ・ 「専任教員採用等変更書（AC）」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」、変更書を提出予定の場合は「〇年〇月変更書提出予定」と記入してください。
 なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「備考」に「（教員審査省略）」及びその変更の理由、変更年度（ ）書き等のみを記入してください。

(2) 専任教員数

設置時の計画					変更状況					年齢構成	
教授	准教授	講師	助教	計	教授	准教授	講師	助教	計	教員の定年年齢	定年を延長している教員数
16	4	4	4	28	13	4	1	7	25	65	8
(12)	(3)	(4)	(4)	(23)	[△3]	[0]	[△3]	[3]	[△3]	歳	名

- (注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、（ ）内に開設時の状況を記入し、「変更状況」には、平成25年5月1日現在（就任予定の者を含む）の状況を記入するとともに、[]内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）
- ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年年齢および、平成25年5月1日現在、特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数を記入してください。

(3) 専任教員辞任等の理由

番号	職位	専任教員氏名	辞任（就任辞退を含む）等の理由
1	准教授	齋藤 信夫	一身上の都合による（母親の介護が必要となったため）
2	教授	杉下 守弘	一身上の都合による
3	教授	岩田 まな	一身上の都合による
4	教授	佐藤 舜也	一身上の都合による
5	教授	真貝 富夫	一身上の都合による
6	講師	佐藤 拓	一身上の都合による
7	教授	石塚 和重	一身上の都合による
8	教授	黒須 敦子	一身上の都合による
9	講師	平田 恒彦	一身上の都合による

(注)・専任教員の辞任等の理由について、可能な限り具体的に記入してください。

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

「大学の所見」：就任辞退者である齋藤信夫准教授が担当予定であった授業科目は、フレッシュマンセミナーⅡ、臨床見学実習、基礎実習、臨床評価実習、臨床総合実習Ⅰ（評価・治療）、臨床総合実習Ⅱ（総括）、卒業研究の7科目である。当初の就任予定が平成23年4月予定であったため、平成22年度内の科目については、学生に不利益が生じることがないため、まったく問題はない。平成23年度までには、後任の専任教員を確保できるよう鋭意努力している。平成23年度4月より後任として濱出茂治教授が就任した。

「学生への周知方法」：平成22年4月2日に実施した、新入生オリエンテーション時に授業科目の説明や担当教員の紹介を行った。その際、平成23年度以降の就任予定教員の氏名は紹介せず、年度更新毎に新たな教員を配置する旨を伝え、特に学生側からの質問等はなかった。また、齋藤信夫准教授のみが担当する科目は存在せず、担当予定の授業科目7科目は複数担当科目のため問題はない。今後、後任の専任教員が決まり次第、学生には掲示等にて周知させる予定である。後任として濱出教授が決定したことを掲示板にて周知した。

「大学の所見」：平成23年4月に退職した杉下守弘教授が担当予定であった授業科目は、「臨床心理学」、「神経心理学」の2科目である。「臨床心理学」は専任教員である、佐藤拓講師でオムニバス形式としていたが、科目開講時までに教員を配置する予定である。「神経心理学」は、相場恵美子兼任教員に依頼済みである。平成23年3月に退職した岩田まな教授が担当予定であった授業科目は、「言語聴覚障害診断学」「言語聴覚障害学各論Ⅰ（MR・自閉症）」「言語発達障害学各論Ⅱ（CP・その他）」「言語発達障害学実習」「臨床見学実習」「基礎実習」「臨床評価実習」「臨床総合実習」の8科目である。「言語聴覚障害診断学」「臨床見学実習」「基礎実習」以外の科目は、平成24年度以降に開講予定のため、調整を行う。平成23年度開講予定の科目は全て、科目開講時までに教員を配置する。平成23年5月に退職した石塚和重教授が担当予定であった授業科目は、「フレッシュマンⅡ（応用）」「臨床見学実習」「基礎実習」「臨床評価実習」「臨床総合実習Ⅰ（評価・治療）」「臨床総合実習Ⅱ（総括）」「卒業研究」の7科目であるが、複数担当教員のため支障なし。

「学生への周知方法」：平成23年度前期に開講予定であった「神経心理学」に関しては、担当教員の退職に伴い、後期へ開講時期を変更した旨を学生へクラスミーティング及び掲示板にて周知を行った。特に学生側からの質問等はなかった。また、平成23年度後期に開講予定の科目に関しても、後任の専任教員が決まり次第、詳細な変更内容について掲示等で周知する予定である。

「大学の所見」：教員辞職に伴う当該担当授業科目については、佐藤(舜)担当分については継続して兼任教員として受け持つ、真貝担当分についても継続して一部兼任教員として受け持ち、一部を他の兼任教員が担当する。また「フレッシュマンセミナーⅡ（応用）」「卒業研究」は教員複数名での科目のため支障はない。佐藤(拓)担当分については、前期開講科目については継続して兼任教員として受け持ち、後期開講科目は後任の専任教員（平成24年度6月審査予定）が担当をする。平成24年8月に退職した黒須敦子教授が担当予定であった授業科目は、「フレッシュマンⅡ（応用）」「言語聴覚学演習Ⅲ（臨床）」「臨床見学実習」「基礎実習」「臨床評価実習」「臨床総合実習」「卒業研究」の7科目であるが、複数担当教員のため支障なし。

「学生への周知方法」：当該授業科目においての変更は掲示板にて周知を実施した。後期開講の佐藤(拓)担当分の後任教員が決定次第、詳細な内容について掲示等にて周知する予定である。(24)

「大学の所見」：平田恒彦担当分「生物科学」「感染症学」については継続して兼任教員として受け持つ。また「フレッシュマンセミナーⅡ（応用）」「卒業研究」については複数名の教員が担当しており、支障はない。

「学生への周知方法」：当該授業科目においての変更は授業開始前に掲示板にて周知を実施した。(25)

(注)・上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください

6 留意事項に対する履行状況等

区 分	留 意 事 項	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
認 可 時 (平成21年10月)	<p>1. 設置の趣旨・目的等が活かされるよう、設置計画を確実に履行すること。また、開設時から4年制大学にふさわしい教育研究活動を行うことはもとより、その水準を一層向上させるよう努めること。特に医療学部としてのカリキュラムが実現されるよう、実習教育をはじめとした教育課程の充実に努めるとともに、その教育課程を不断に検証すること。</p>	<p>4年制大学にふさわしい教育研究活動及び教育課程の充実に努め、それを検証するため以下の努力を行っている。</p> <p>○全般的事項 設置の趣旨・目的等を活かすよう、次項「全般的事項」7-1-①に示すように、学生や社会に資料等で明示し、公開している。</p> <p>○教育研究活動 教育研究活動の水準を向上させるため、学内にてFD委員会を設置し、開学時より活動している。</p> <p>○教育課程の充実 教育課程の充実を図るために、教務委員会を設置し、カリキュラムが滞りなく遂行され、その効果を不断に検証できるよう努力している。 (22)</p>	
	<p>2. 「解剖学実習」において、言語聴覚学専攻に特異的な解剖領域（頭・頸部の解剖等）の充実を図ること。（言語聴覚学専攻）</p>	<p>○講義内容を変更し、頭・頸部の解剖を含めた内容とした。 (22)</p>	
	<p>3. 運動場が別地にあることから、教育に支障のないようにすることはもとより、学生の課外活動等に配慮すること。</p>	<p>○今年度は、運動場を利用する講義は未実施。同じく課外活動においても現時点では運動場は利用していない。 (22)</p>	<p>○正課の保健体育においては現在のところ本学体育館及び、近隣の体育館（本学より約3km）を使用している。今後運動場を使用する場合は、必要に応じて送迎（学有車等）をする予定である。</p> <p>また課外活動においては、学内で検討を重ね、今後利用するであろう学生に対して不利益が生じないように配慮をしていく。(22)</p> <p>現在保健体育では運動場の使用はないため問題ない。</p> <p>課外活動時は、顧問が常時完全管理を行う。また、移動が困難な学生は顧問が校有車にて送迎を行う。その他にも学生員会及び事務職員が校有車にて送迎を行い、課外活動に距離的な支障が生じないように十分配慮する。また移動時の校有車両については万一の事故時に備えての保険加入はもとより、交通安全についても十分注意するよう常によびかけ、事故防止に努める。 (23)</p>

区 分	留 意 事 項	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
<p>認可時 (平成21年10月)</p>	<p>4. 教員の補充を必要とされた17授業科目については、科目開設時までには教員を充足すること。うち、専任教員の配置を必要とされた15授業科目については、確実に専任教員を配置すること。</p>	<p>○専任教員の補充を必要とされた14授業科目については、平成21年12月「専任教員採用等設置計画変更書(AC)」を提出した。その結果、平成22年2月文部科学省大学設置室より11科目については担当が「可」である旨の連絡を受けた。以下に詳細を示す。 「基礎運動学概論」「基礎運動学各論」「臨床運動学」「理学療法技術学Ⅱ(運動器)」：教授 佐藤舜也 「基礎理学療法学」：教授 浅海岩生 「理学療法概論」「基礎運動療法学」「理学療法評価学」：教授 灰田信英 「理学療法評価学」「理学療法技術学Ⅰ(中枢)」：教授 高橋邦丕 「中枢神経疾患理学療法学実習」：教授 高橋洋 「発達障害理学療法学」：講師 和田有子 (22)</p> <p>○専任教員の補充を必要とされた14授業科目のうち、13授業科目について専任教員を配置した。うち11授業科目は上記に記載。残り2授業科目は平成23年2月の「専任教員採用等設置計画変更書(AC)」に提出し、「可」の判定を受けた。以下に詳細を示す。 「物理療法学」「中枢神経障害理学療法学」：教授 濱出茂治 (23)</p> <p>○兼任教員の補充を必要とされた3授業科目のうち、2授業科目は兼任教員を補充した。以下に詳細を示す。 「日常生活活動学」：高橋明美、田中健 「循環器疾患理学療法学」：椿淳裕 (22)</p> <p>○兼任教員の補充を必要とされた3授業科目すべてに兼任教員を配置した。うち2授業科目は上記に記載、残り1授業科目を補充した。 「生活環境論」：小野敏子、松尾真輔、原口裕希、野澤繁、吉井真里、児玉敏彦 (23)</p>	<p>○専任教員の補充を必要とされた14授業科目のうち、3授業科目(「物理療法学」「中枢神経疾患理学療法学」「運動器疾患理学療法学」)については平成22年6月に「専任教員採用等設置計画変更書(AC)」にて提出する。3授業科目とも平成22年度に開講しないため、問題はない。(22)</p> <p>○兼任教員の補充を必要とされた「生活環境論」は現在調整中である。平成22年度は開講しないため問題はない。(22)</p> <p>○専任教員の補充を必要とされた14授業科目のうち、1授業科目の「運動器疾患理学療法学」については、平成23年度内の「専任教員採用等設置計画書(AC)」に提出する。平成23年度内に開講しないため、問題はない。(23)</p>

区 分	留 意 事 項	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
認 可 時 (平成21年10月)	<p>(その他の意見)</p> <p>○論理的な思考を涵養する上で、「自助具等の制作発表」は不適切であることから削除することが望ましい。</p> <p>○シラバスにおける成績評価の記載を充実することが望ましい。</p>	<p>○論理的思考を涵養するため、カリキュラム内の卒業研究において、「自助具等の制作発表」が含まれていたが、指摘を受け削除した。卒業研究では、少人数のゼミ形式での症例報告等を行い、科学的根拠に基づいた論理的思考、プレゼンテーション技能、コミュニケーション技能を身に付けることを目的とする。</p> <p>○新入生オリエンテーションに配布した「学生便覧、履修の手引き」内のシラバスには、成績評価をGPA制度に準じて行う旨を記載した。GPA制度の成績評価については、新入生オリエンテーション等にて十分説明した。</p>	
設置計画 履行状況 調査時 (23年2月)	<p>1. 運動場については、早急に使用できるよう整備すること。その際、安全管理に留意することはもとより、学生からの要望等も踏まえつつ必要な環境整備を図るよう留意すること。</p> <p>2. 専任教員の補充を必要とされた14科目全てについて、新たに教員を採用せず、既に配置されている教員の担当科目を追加し対応するのは不適切なため、若手の専任教員を早急に確保するとともに、教員の負担軽減や研究環境整備にも配慮すること。</p>	<p>○留意事項に示された内容を履行するために、学生の要望を最大限考慮し、昨年22年度に陸上の基礎運動用具を揃えさらに、フットサル、キャッチボールができるよう整備をした。学生の課外活動がより活発になってきたことに伴い、野球サークル、サッカーサークルが充実した活動ができるよう、運動場ネット、整備用レーキ、サッカーゴールを購入した。</p> <p>また、安全に活動できるよう、運動場の日常的な巡視・点検を大学職員により実施し、緊急時に備え、隣接している保育園へ協力を依頼している。</p> <p>引き続き施設設備の充実を図りたい。(23)</p> <p>○専任教員の補充を必要とされた14科目のうち、2科目については新たな教員を配置し、平成22年1月「専任教員採用等設置計画変更書(AC)」にて「可」の判定を受けた。</p> <p>採用教員と担当科目については下記に示す。</p> <p>採用教員：教授 濱出茂治(62歳)</p> <p>担当科目：「物理療法学」・「中枢神経疾患理学療法学」(23)</p>	<p>○施設設備の充実を図る為、新たに野球用具一式(プロテクター、レガース、バット、ヘルメット等)を揃えた。安全面については、引き続き日常的な巡視・点検を職員にて実施するとともに、隣接する保育園児へ危険が及ばないように、覚書を村上市と取り交わした。(24)</p> <p>○専任教員の補充を必要とされた14科目のうち、担当未定の「運動器疾患理学療法学」1科目については新たな教員を配置する予定である。</p> <p>○若手の専任教員の確保については、平成23年6月に「専任教員採用等設置計画変更書(AC)」にて1名提出する予定である。(23)</p>

区 分	留 意 事 項	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
	<p>3. 医療学部リハビリテーション学科の定員充足の平均が0.7倍未満となっていることから、学生確保に努めるとともに、今後の定員の在り方について検討すること。</p>	<p>○平成23年度入学試験を実施した結果、医療学部リハビリテーション学科での定員充足は0.86倍となった。平成23年度入学者数は85名となり、定員を上回ったためこのような数値となった。平成22年度入学生の学生募集と違い、年度当初からの募集活動が可能であった点や、幅広い層の受験を可能としている入試種別の追加、入試回数増加等により23年度の入学者数が増加した結果である。今後も定員確保に向けて検討・努力を行う。(23)</p>	
<p>設置計画 履行状況 調査時 (23年2月)</p>	<p>(その他意見) ○単位の実質化の観点から、成績評価の厳格化(グレード・ポイント・アベレージ(GPA)や再試験制度の厳格運用等)に留意すること。</p>	<p>○成績評価の厳格運用を遂行するために、以下の内容を変更した。</p> <p>①チューター制度を導入 教員1名に対して4～6名程度の学生を割り当て、履修指導を行う。</p> <p>②GPA総合評価とCAP制の変更 新総合評価 (1) 4.0～3.4 最優秀 (2) 3.3～2.7 優 (3) 2.6～2.0 良 (4) 1.9～1.3 可 (5) 1.3未満 注意 旧総合評価に比べ、新総合評価では基準を厳しくした。さらにCAP制に該当する成績基準を1.5から1.9へと引き上げた。</p> <p>③再試験受験資格 平成22年度では、定期試験にて不合格であった科目に対して、申請書を提出することで誰でも再試験を受験できたが、平成23年度より再試験制度を厳格化し、再試験受験資格を「定期試験又は追試験を受験して不合格となり進級に必要な単位が不足してしまった場合で、その不足単位が3科目以内である者」とするよう規程を整備した。 (23) (添付資料：学生便覧「試験について」参照)</p>	

区 分	留 意 事 項	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
	○学生への情報提供について一層の充実を図ること。	○学生への情報提供 ①掲示板の掲示方法 掲示板を学年、専攻別に設けて掲示を行い、学生が確認し易いように整備した。 ②携帯電話へのメール連絡 掲示板のみでは、緊急の変更内容の対応できないため、重要かつ緊急の連絡事項に関しては、掲示板と合わせて学生個人のEメールアドレス宛に連絡を行っている。 ③Xteamの導入 インターネットを利用して本学のグループウェアにアクセスすることで、最新の時間割等が確認できるようにしている。(23)	
設置計画 履行状況 調査時 (23年2月)	○学生の要望等を踏まえつつ、キャンパスアメニティーの充実を図ること。	○学生対象の学生食堂改善、購買部設置、大学バスに関するアンケートの実施。結果に基づき以下の如く改善検討を行った。 ①学食のテーブル配置改善による空間利用の改良 ②学食の改修工事の計画交渉中。 ③メニュー改善のための地元団体との連携交渉、それに伴う試食会の実施 ④今後の学食改善に対する検討会実施（月1回程度）と学生委員募集 ⑤学食改善に伴う設備の検討とそれに伴う研修への参加 ⑥購買部設置に関する検討会の実施（④と同時に開催） ⑧保健室の利用し易さを改良すべく、学内医師による当番表を作成。保健室利用に関する情報を学生に周知した。 (23)	①②学食改修工事については、平成23年度中に実施するために経費を予算化している。具体的な改修内容として、景観美化のためのパーテーション設置、床面張替、引き戸からドアへの変更を予定。 ③④メニュー改善については、平成23年度中に学食業者へ要望書を提出しメニューを含め内容の改善を提案する予定。また、引き続き地元団体との連携を進めるため平成23年度内にも試食会も実施し、学生のニーズを把握し、地域の食材・食文化への理解促進も合わせて図る予定である。 (23) ○学食改修工事について、当初23年度中に実施する予定であったが、学内で進行している他の計画との兼ね合いにて実施は見直しとなった。平成24年度以降、より学生の要望に応えることができるよう総合的な視点から整備を進めていく。また、学食メニューについては、一部改善された。 (24)

区 分	留 意 事 項	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
設置計画 履行状況 調査時 (24年2月)	○授業に支障が出ないよう、 大学としての全体的な教員採用 計画を作成し、教員組織を 充実すること。	○専任教員補充とされた科目 については全て教員判定を経 て専任教員が担当している。 また平成23年10月には助教を 1名補充済みであり、さらに今 年度は助手を1名補充するほか 7月教員判定では3名の教員の 判定準備をしており、今後も 設置計画に則り教員を充実さ せる予定でいる。(24)	
	○運動場は前年度の指摘を踏 まえ、整備はされたものの、 隣接した幼稚園との間にフェ ンスを設置する等安全面での 配慮が必要である。また、最 寄り駅が遠く、豪雪地である ことから、遠方から通学する 学生の安全・利便性を鑑み、 通学手段について送迎バスを 取り入れる等の改善策を検討 すること。	○隣接している保育園児の安 全確保のため、村上市より 16:00以降に野球等の球技種目 を実施する事を求められた 為、覚書を改めて取り交わ し、園児の安全確保を図っ た。送迎バスについては、昨 年11月に運行を開始し、今後 は利用人数、学生のニーズ等 に合わせ運行できるよう整備 していく。添付資料③ グラウ ンド使用の覚書 添付資料④ 保育日課表 (24)	
設置計画 履行状況 調査時 (25年2月)	○該当なし		

- (注) ・ 「設置時」には、当該大学等の設置時に付された留意事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る留意事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入し、報告年度を（ ）書きで付記してください。（認可で設置された学部学科等のみ。）
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該設置計画履行状況調査の結果、付された留意事項に対する履行状況等について、具体的に記入するとともに、その履行状況等を裏付ける資料があれば、添付してください。
 - ・ 定員管理に係る留意事項への履行状況は、指摘を受けた学科等についてのみ記入してください。
 - ・ 該当がない場合には、「該当なし」と記入してください。

7 その他全般的事項

<医療学部 リハビリテーション学科>

(1) 設置計画変更事項等

① 設置の趣旨及び必要性

認可時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
<p>(a)教育の理念、目的 本学は、教育基本法及び学校教育法に基づき、「人の心の杖であれ」の精神を礎とした崇高な倫理感を備え、優れた医療人としての厳格さと慈愛を併せ持つ全人教育を目指し、わが国の医療分野に貢献することを目的とする。 中・長期的な教育目標は下記のとおりである。 (1) 崇高な倫理観と医療従事者としての使命感を常に有する人材の育成 (2) 地域社会に貢献できる人材の育成 (3) 文化教養に精通し、国際社会に貢献できる人材の育成</p>	<p>○平成22年4月の開設時より、教育の理念、目的を以下にて明示し、計画通り履行している。 ・2011年度大学案内（パンフレット） ・ホームページ(http://nur.ac.jp) ・各種進路説明会にて積極的に説明を行った。 ・5月以降に開催予定のオープンキャンパス等において、入学希望者には教育理念をよく説明する。</p> <p>○平成23年度も同様に教育理念、目的を以下に明示し、計画通り履行している。 ・2012年度大学案内（パンフレット）での説明。 ・高校訪問での進路担当教員への説明。 ・各種進路説明会にて説明。 ・6月以降のオープンキャンパス開催をとおしての説明。</p>

- (注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置認可時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。
 ・ 認可申請書の「設置の趣旨等を記載した書類」の項目に沿って作成し、それ以外の事柄については適宜項目を設けてください。（記入例参照）

② 教育課程の編成及び考え方の特色

認可時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
<p>(a)教育課程の編成の考え方 履修科目を大きく「教養分野」「専門基礎分野」「専門分野」に分け学習が進められるように体系的に編成している。必修科目及び選択科目を合わせて「教養分野」では26科目48単位配置し、「専門基礎分野」では36科目54単位配置されている。両分野では、専攻別とせずリハビリテーション学科として理学療法学専攻、言語聴覚学専攻が共に学び人間形成、専門職業人としての基礎を身につける。「専門分野」から、専攻別に分かれ、理学療法学専攻に41科目71単位を言語聴覚学専攻に38科目61単位を配置し、より高度で専門的な学習を行うように編成している。</p> <p>①教養分野 (26単位以上) 教育目的達成のための基盤となる科目群であり、慈愛に満ちた人間性豊かな社会人と、幅広い知識に裏打ちされた医療専門職を目指す学生の骨格となる部分である。教養分野は「導入教育」「人文科学」「社会科学」「自然科学」「体育関係学」「情報」「外国語」7分野の細目に分かれ、本学の教育目標達成のための主要科目は必修科目とし、他の科目は個々の能力に幅広く対応できるように選択科目として位置付ける。</p> <p>「導入科目」(2科目) フレッシュマンセミナーⅠ(基礎)、フレッシュマンセミナーⅡ(応用)</p> <p>「人文科学」(4科目) 臨床倫理学、地域文化論、心理学概論、行動科学概論</p> <p>「社会科学」(4科目) 社会学、経営学、法学、対人関係論</p> <p>「自然科学」(5科目) 統計学、生物科学、地域環境学、人間支援科学、物理学</p> <p>「体育関係学」(2科目) レクレーション、保健体育</p> <p>「情報」(2科目) 情報処理技法、情報処理演習</p> <p>「外国語」(7科目) 英語Ⅰ(初級)、英語Ⅱ(中級)、英語Ⅲ(上級)、 オーラルコミュニケーションⅠ(初級)、オーラルコミュニケーションⅡ(中級)、 オーラルコミュニケーションⅢ(上級)、医療英文抄読法</p> <p>②専門基礎分野 (理学療法学専攻33単位以上、言語聴覚学専攻43単位以上) 「高度な知識に裏打ちされた医療従事者及び研究者の育成」を目的に、専門分野での学習が円滑に行えるために、「基礎医学」「臨床医学」「社会福祉」「リハビリ関連科目」「心理関連科目」の5領域に分けて、医学分野及びリハビリテーション分野の基礎知識を身に付ける。特に基礎医学、臨床医学、社会福祉は基礎分野の中核をなす科目として重要のため必修とし、リハビリ関連科目及び心理関連科目は選択科目とする。</p> <p>「基礎医学」(8科目) 解剖学Ⅰ(総論)、解剖学Ⅱ(各論)、解剖学実習、 生理学、神経生理学、生理学実習、病理学概論、医学概論</p> <p>「臨床医学」(9科目) 臨床心理学、生涯発達心理学、内科学、臨床神経学、 小児科学、精神医学、リハビリテーション医学、医療安全管理学、感染症学</p> <p>「社会福祉」(2科目) リハビリテーション概論、保健医療福祉制度論</p> <p>「リハビリ関連科目」(7科目) 高次脳機能障害学概論、摂食・嚥下障害学概論、 手・上肢医療学、認知症、薬理学、生化学、栄養学</p> <p>「心理関連科目」(10科目) 社会心理学、食の心理学、健康心理学、児童心理学、 心理学実験演習、心理測定法、認知心理学、学習心理学、 音響・聴覚心理学、神経心理学</p>	<p>○設置認可時の予定通りに履行している。</p> <p>○変更なし</p> <p>○統計学、保健体育の2科目については、平成21年11月の文部科学省医学教育課からの指導により、選択科目から必修科目に変更した。</p> <p>○変更なし</p>

認可時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
<p>③専門分野（理学療法学専攻 67単位以上） 理学療法学専攻での専門分野は、主に患者の身体的・社会的な面に対して、理学療法の基礎知識・技術・応用力を体系的に学ぶため、「基礎理学療法学」「理学療法評価学」「理学療法治療学」「地域理学療法学」「臨床実習」「特論」の6分野で構成している。医療施設のみならず地域リハビリテーションの分野での実践力を重視し、保健医療福祉分野の各専門職者と連携・協働できるように、また、従来の治療医学のみならず予防医学に展開できるように、教育課程を編成する。</p> <p>「基礎理学療法学」（10科目） 基礎運動学概論、基礎運動学各論、運動学実習、整形外科学、理学療法概論、基礎理学療法学、基礎運動療法学、リハビリテーション工学、動作解析学実習、臨床運動学</p> <p>「理学療法評価学」（3科目） 理学療法評価学、理学療法評価学実習、理学療法評価学演習</p> <p>「理学療法治療学」（17科目） 物理療法学、物理療法学実習、日常生活活動学、日常生活活動学実習、運動器疾患理学療法学、運動器疾患理学療法学実習、中枢神経疾患理学療法学、中枢神経疾患理学療法学実習、神経・筋疾患理学療法学、発達障害理学療法学、呼吸器疾患理学療法学、循環器疾患理学療法学、代謝系疾患理学療法学、スポーツ障害理学療法学、老年期理学療法学、健康増進理学療法学、義肢・装具学</p> <p>「地域理学療法学」（2科目） 生活環境論、地域リハビリテーション</p> <p>「臨床実習」（5科目） 臨床見学実習、基礎実習、臨床評価実習、臨床総合実習Ⅰ（評価・治療）、臨床総合実習（総括）</p> <p>「特論」（4科目） 理学療法技術学Ⅰ（中枢）、理学療法技術学Ⅱ（運動器）、理学療法技術学Ⅲ（痛み）、卒業研究</p> <p>④専門分野（言語聴覚学専攻 57単位以上） 言語聴覚学専攻で行う専門分野では、「言語聴覚障害学」「失語・高次脳機能障害学」「言語発達障害学」「発声発語・嚥下障害学」「聴覚障害学」「臨床実習」「特論」の7分野に分け、それぞれ体系的に学べるように配置する。特に、「高度な知識に裏打ちされた医療従事者の育成」さらに、「摂食・嚥下障害や言語及び認知機能についての評価や治療が行え、十分な対応が可能な言語聴覚士の育成」を目的としていることから、実践的な評価や治療技術が必要な科目に関しては、実習を配置し、臨床現場で即座に対応できるように構成する。</p> <p>「言語聴覚障害学」（4科目） 言語聴覚障害学総論、言語聴覚障害学診断学、言語学、音声学</p> <p>「失語・高次脳機能障害学」（4科目） 言語医学、失語症学、高次脳機能障害学各論、高次脳機能障害学実習</p> <p>「言語発達障害学」（5科目） 言語発達学、言語発達学概論、言語発達障害学各論Ⅰ（MR・自閉症）、言語発達障害学各論Ⅱ（CP・その他）、言語発達障害学実習</p> <p>「発声発語・嚥下障害学」（10科目） 音声医学、形成外科学、臨床歯科医学、音声障害学、運動障害性構音障害学、器質・機能的構音障害学、吃音、呼吸リハビリテーション学、摂食・嚥下障害学各論、摂食・嚥下障害学実習</p> <p>「聴覚障害学」（7科目） 聴覚医学、耳鼻咽喉科学、小児聴覚障害学、成人聴覚障害学、補聴器・人工内耳、聴力検査法、聴力検査実習</p> <p>「臨床実習」 臨床見学実習、基礎実習、臨床評価実習、臨床総合実習</p> <p>「特論」 言語聴覚学演習Ⅰ（基礎）、言語聴覚学演習Ⅱ（専門）、言語聴覚学演習Ⅲ（臨床）、卒業研究</p> <p>以上の教育課程を体系的に編成する。</p>	

(注) ・ 1～6の項目により記入した事項以外で、設置認可時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。
・ 認可申請書の「設置の趣旨等を記載した書類」の項目に沿って作成し、それ以外の事柄については適宜項目を設けてください。（記入例参照）
・ 認可申請書の「設置の趣旨等を記載した書類」の項目に沿って作成し、それ以外の事柄については適宜項目を設けてください。（記入例参照）

③ 教員組織の編成の考え方及び特色

認可時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
<p>1. 理学療法学専攻 理学療法士の免許を有し、経験5年以上の教員を8名配置している。そのうち教授4名、准教授1名は博士の学位を有している。また、リハビリテーション領域における教育・研究業績が豊富な医師1名を配置する。専門分野の「基礎理学療法学」分野の専任教員2名、「理学療法評価学」分野の専任教員1名、「理学療法治療学」分野の専任教員5名、「地域理学療法学」分野の専任教員1名を配置した。これらの教員配置により、各領域の理解を深める充実した教育体制を整え、専門分野の理解を深められるように指導する。</p> <p>2. 言語聴覚学専攻 言語聴覚士の免許を有する教員を6名配置している。そのうち教授3名・准教授1名は博士の学位を有し、臨床及び教育・研究の実績がある教員である。その他に、言語聴覚士に関わる分野において、教育が可能な医師及び歯科医師も配置する。特に、言語聴覚士として中核をなす分野には実習科目が配置してあり、それぞれ専任教員が担当する。分野別の担当教員は、「失語・高次脳機能障害」分野の教員を2名、「摂食・嚥下障害学」分野の教員を2名、さらに「言語発達障害学」分野の教員は2名、「聴覚障害学」分野の教員を2名とし、各分野に専任教員を配置する。本学の建学の精神である高度な知識に裏打ちされた医療従事者の育成に十分な教員組織を構成する。</p>	<p>○理学療法学専攻の教員組織のうち、齋藤信夫准教授は理学療法士の免許と博士の学位を有している専任教員であるが、本人の事情により辞退した。よって教員組織の編成は、「理学療法士の免許を有し、経験5年以上の教員を7名配置している。そのうち教授4名は博士の学位を有している。」に変更となる。後任については、現在調整中である。</p> <p>○平成22年度就任を辞退した齋藤信夫准教授の後任として、理学療法士の免許と博士の学位を有している濱出茂治教授を平成23年度より配置した。よって、教員組織の編成は、「理学療法士の免許を有し、経験5年以上の教員を8名配置している。そのうち教授4名、助教1名は博士の学位、教授2名、助教1名は修士の学位を有している。」に変更となる。</p> <p>○平成23年10月より理学療法士の免許と修士の学位を有している高橋裕二助教を専任教員として配置した。平成24年4月より理学療法士の免許と修士の学位を有している高橋洋教授を専任教員として配置した。よって、教員組織の編成は、「理学療法士の免許を有し、経験5年以上の教員を8名配置している。そのうち教授4名、助教1名は博士の学位、教授1名、助教2名は修士の学位を有している。」に変更となる。</p> <p>○平成25年4月より理学療法士の免許と博士の学位を有している星野浩通助教を専任教員として配置した。よって、教員組織の編成は、「理学療法士の免許を有し、経験5年以上の教員を9名配置している。そのうち教授4名、助教2名は博士の学位、教授1名、助教2名は修士の学位を有している。」に変更となる。(25)</p> <p>○言語聴覚学専攻の教員組織については、設置認可時より変更なし。</p> <p>○言語聴覚学専攻の教員の中で、言語聴覚士免許を有する者のうち、岩田まな教授が一身上の都合により退職した。よって、「言語聴覚士の免許を有する教員は6名から5名への配置の変更となり、教授2名、准教授1名は博士の学位を有し、助教2名は修士の学位を有する教員編成である。」に変更となる。岩田まな教授の後任については、現在調整中である。</p> <p>○平成24年4月より言語聴覚士免許と修士の学位を有している道関京子教授を専任教員として配置した。よって、教員組織の編成は、「言語聴覚士の免許を有し、経験5年以上の教員を6名配置している。そのうち、教授2名、准教授1名は博士の学位を有し、教授1名、助教2名は修士の学位を有している。」に変更となる。(24)</p> <p>○平成25年4月より言語聴覚士免許と修士の学位を有している高橋圭三を専任教員として配置した。よって、教員組織の編成は、「言語聴覚士の免許を有し、経験5年以上の教員を7名配置している。そのうち、教授2名、准教授1名は博士の学位を有し、教授1名、助教3名は修士の学位を有している。」に変更となる。(25)</p>

(注) ・ 1～6の項目により記入した事項以外で、設置認可時の計画より変更のあったもの(未実施を含む。)及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。
 ・ 認可申請書の「設置の趣旨等を記載した書類」の項目に沿って作成し、それ以外の事柄については適宜項目を設けてください。(記入例参照)
 ・ 認可申請書の「設置の趣旨等を記載した書類」の項目に沿って作成し、それ以外の事柄については適宜項目を設けてください。(記入例参照)

④ 教育方法、履修指導方法及び卒業要件

認可時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど																																														
<p>(a) 成績評価と履修単位の上限設定</p> <p>成績評価の厳格化のため、成績評価基準にGPA制度を用い、「+A (90点以上、GP4.0)」「A (80点以上90点未満、GP3.0)」「B (70点以上80点未満、GP2.0)」「C (60点以上70点未満、GP1.0)」「D (60点未満、GP0)」の5段階評価を行う。学部が定める算出式に基づいてGPAを算出し、学生の履修指導及び学業成績優秀者選考等に活用する。</p> <p>成績評価基準 (GPA制度)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>点数</th> <th>評価</th> <th>判定</th> <th>GPA</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>90点以上</td> <td>+A</td> <td>合格</td> <td>4点</td> </tr> <tr> <td>80点以上90点未満</td> <td>A</td> <td>合格</td> <td>3点</td> </tr> <tr> <td>70点以上80点未満</td> <td>B</td> <td>合格</td> <td>2点</td> </tr> <tr> <td>60点以上70点未満</td> <td>C</td> <td>合格</td> <td>1点</td> </tr> <tr> <td>60点未満</td> <td>D</td> <td>不合格</td> <td>0点</td> </tr> </tbody> </table> <p>GPA算出式</p> <p>期別GPA</p> $\frac{\text{〔その学期に評価を受けた科目で得たGP〕} \times \text{〔その科目の単位数〕の合計}}{\text{その学期に評価を受けた科目の単位数}}$ <p>通算GPA</p> $\frac{\text{〔各学期に評価を受けた科目で得たGP〕} \times \text{〔その科目の単位数〕の合計の総和}}{\text{〔各学期に評価を受けた科目の単位数の合計〕の総和}}$ <p>算出したGPAを以下のように総合評価します。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>GPA</th> <th>総合成績評価</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>(1) 3.5~4.0</td> <td>最優秀</td> </tr> <tr> <td>(2) 3.0~3.4</td> <td>優</td> </tr> <tr> <td>(3) 1.6~2.9</td> <td>良</td> </tr> <tr> <td>(4) 1.0~1.5</td> <td>可</td> </tr> </tbody> </table>	点数	評価	判定	GPA	90点以上	+A	合格	4点	80点以上90点未満	A	合格	3点	70点以上80点未満	B	合格	2点	60点以上70点未満	C	合格	1点	60点未満	D	不合格	0点	GPA	総合成績評価	(1) 3.5~4.0	最優秀	(2) 3.0~3.4	優	(3) 1.6~2.9	良	(4) 1.0~1.5	可	<p>○成績評価と履修単位の上限設定については、「学生便覧、履修の手引き」に明示し、履行している。また、入学前のオリエンテーションならびに導入科目のフレッシュマンセミナーにおいても詳細な説明を行った。</p> <p>○GPAの総合評価を留意事項に対応して下記の内容に変更した。</p> <p>算出したGPAを以下のように総合評価します。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>GPA</th> <th>総合成績評価</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>(1) 4.0~3.4</td> <td>最優秀</td> </tr> <tr> <td>(2) 3.3~2.7</td> <td>優</td> </tr> <tr> <td>(3) 2.6~2.0</td> <td>良</td> </tr> <tr> <td>(4) 1.9~1.3</td> <td>可</td> </tr> <tr> <td>(5) 1.3未満</td> <td>注意</td> </tr> </tbody> </table>	GPA	総合成績評価	(1) 4.0~3.4	最優秀	(2) 3.3~2.7	優	(3) 2.6~2.0	良	(4) 1.9~1.3	可	(5) 1.3未満	注意
点数	評価	判定	GPA																																												
90点以上	+A	合格	4点																																												
80点以上90点未満	A	合格	3点																																												
70点以上80点未満	B	合格	2点																																												
60点以上70点未満	C	合格	1点																																												
60点未満	D	不合格	0点																																												
GPA	総合成績評価																																														
(1) 3.5~4.0	最優秀																																														
(2) 3.0~3.4	優																																														
(3) 1.6~2.9	良																																														
(4) 1.0~1.5	可																																														
GPA	総合成績評価																																														
(1) 4.0~3.4	最優秀																																														
(2) 3.3~2.7	優																																														
(3) 2.6~2.0	良																																														
(4) 1.9~1.3	可																																														
(5) 1.3未満	注意																																														

認可時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
<p>GPAは各期末に作成される成績表に記載され、併せて記載される全学および学部、学年、専攻ごとのGPAの平均値と対比させることにより学生が自分の学習についての現状を数値により把握でき、次期からの履修計画や学習全体への取組について客観的分析をすることに役立てることを目的として用意する。</p> <p>また、学士課程教育の質の維持・向上を図るために、履修単位の上限設定（CAP制）を行う。上限は各専攻・各学年で設定し、所定の履修科目の単位を優れた成績をもって修得した学生については基準単位数を超えての履修登録を認める。期別GPA1.5未満の学生については教務部門担当教員との面談を実施し、学習への取組について指導すると共に履修登録に制限をかけ、卒業要件を満たす単位取得を優先させるよう併せて指導する。2期連続で期別GPA1.5未満の学生については成績向上に向けての具体策を生活面、学習面で改善していくため学生と教務部門担当教員と保護者（保証人）との三者で面談を実施する。成績優秀者に対する措置として学習および実習に取り組むモチベーションとなるような特典を用意する。</p> <p>卒業時通算GPA3.0以上の学生は新潟リハビリテーション大学大学院へ進学する場合に特待生（学費の減免）として進学することができる。卒業時通算GPA3.5以上の学生には成績優秀者として表彰等を行う。シラバスに具体的な授業内容・計画及び成績評価方法・履修単位の上限設定について明示するとともに、入学時のオリエンテーションで詳細な説明を行い、上限を超えた履修がないように指導する。また、教員に対しては、FD研修でその実施法について研修し、教員間の成績評価基準の統一を図る。</p> <p>注1) 追試験及び再試験も本学規程に沿って行う。 注2) 複数の教員で担当された科目は、各科目責任者がその他の教員と配点及び評価を検討して、総合評価する。</p>	<p>○GPAの総合評価の変更に伴い、履修単位の上限設定（CAP制）のための成績基準を変更した。加えて、チューター制の導入に伴い下記内容の如く変更した。</p> <p>期別GPAが2.0以上であった学生については上限設定単位数（基準単位数）を超えての履修登録を認める。しかし、期別GPA1.9以下の学生についてはチューターと面談し、学習への取組について指導を受けると共に履修登録に制限をかけ、卒業要件を満たすための単位取得を優先させる。さらに、2期連続で期別GPA1.9以下の学生については成績向上に向けての具体策を生活面、学習面で改善していくためクラスアドバイザー、学生、保護者（保証人）の三者で面談を実施する。</p> <p>期別の履修計画を作成する際は、期別GPA1.9以下の学生は上限を超えた履修がないように、クラスアドバイザーは必ず確認して指導している。</p> <p>○学生指導をさらに強化、充実のため、チューターおよびクラスアドバイザーの業務分担を明確にするとともに、チューターを増員し、細かく指導、声掛けを行えるようにした。また、最低年2回チューターによる学生面談を実施することを義務づけ、学生の状況把握に努める。（25）</p>
<p>(b) 履修指導方法</p> <p>(1) 教務部による履修指導 理学療法学専攻および言語聴覚学専攻に履修指導担当（教務部）の教員を配置する。入学時のオリエンテーションにてシラバスを用いて専攻別に履修指導担当教員が説明を行い、履修計画を学生に立てさせる。提出された履修計画書が的確であり、学生が希望する卒業要件を満たしているのかを、教務部で検討した後、学生へと伝達される。さらに、前期から後期への移行時や進級の際に、学生が計画的に科目履修しているのかを再確認し、不十分な学生に対しては指導・助言を行う。</p> <p>(2) その他 学生の指導に関しては、履修指導の他に、ゼミ担当教員による履修及び学習指導や学生部による大学生活態度などの指導を行う。医療従事者や専門職業人としての認識を持たせ、大学での学習がより質の高いものになるように援助をする。さらに就職活動指導や健康管理面としてカウンセラーによる学生相談の整備なども行い、有意義に学生生活を送れるように配慮する。</p> <p>(c) 卒業要件</p> <p>理学療法学専攻：必要最低卒業要件単位数 126単位 教養分野 必修科目6単位 選択科目42単位 専門基礎分野 必修科目25単位 選択科目29単位 専門分野 必修科目63単位 選択科目8単位</p> <p>言語聴覚学専攻：必要最低卒業要件単位数 126単位 教養分野 必修科目6単位 選択科目42単位 専門基礎分野 必修科目25単位 選択科目29単位 専門分野 必修科目53単位 選択科目8単位</p>	<p>○履修指導は教務委員会のもと入学時に「学生便覧、履修の手引き」に沿ってオリエンテーションを実施した。その後学生に履修計画を立てさせ、提出された履修計画書を教務委員会が確認し、不十分な学生に対しては再指導を行った。</p> <p>○履修指導以外に関しては、学生委員会より入学時のオリエンテーションにて大学生活における基礎知識や医療従事者としての認識を持たせるよう「学生便覧、履修の手引き」に沿って指導を行った。また学生支援課を設置し、大学での学習がより質の高いものになるように援助している。</p> <p>○その他、大学生活の中での健康管理等について気軽に相談できる学生相談室を設置し、専門家によるカウンセリングを受けられるよう整備した。</p> <p>○22年度は教務部により履修指導を行ったが、23年度よりチューター制を導入し、教員1名が5～7人程度の学生を担当し、履修指導だけでなく学生生活などの指導も行っている。</p> <p>○理学療法学専攻、言語聴覚学専攻ともに、教養分野の「統計学（2単位）」「保健体育（1単位）」は、文部科学省医学教育課の指導（平成21年11月）により選択科目から必修科目に変更した。</p> <p>教養分野 必修科目9単位 選択科目39単位に変更。</p> <p>○卒業要件は学則に明示している。また教務委員会のもと入学時に「学生便覧、履修の手引き」に沿ってオリエンテーションを実施し指導した。</p>

(注) ・ 1～6の項目により記入した事項以外で、設置認可時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。
 ・ 認可申請書の「設置の趣旨等を記載した書類」の項目に沿って作成し、それ以外の事柄については適宜項目を設けてください。（記入例参照）

⑤ 施設、設備等の整備計画

認可時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
<p>校地、運動場の整備計画 校地、運動場については平成22年度から平成24年度までは新潟リハビリテーション専門学校と共用とする。(11,026.28㎡) 運動場(グラウンド)は校地より5kmの位置にある土地を村上市より借り受け(約5,000㎡)、グラウンド用地として整備し、主として学生の課外活動の際に利用する。さらに校地内に体育館(341.00㎡)の新築も予定している。グラウンド、体育館の主な用途としては、学生のサークル活動、福利厚生での使用を予定している。 E棟2階の屋上は、C棟1階の学生食堂(273.26㎡)と共に学生の交流の場、憩いの場として開放する事を予定している。 <input type="checkbox"/></p> <p>図書等の資料及び図書館の整備計画 ①図書資料の整備 現在、新潟リハビリテーション専門学校(以下、専門学校とする)の図書室は拡充され(470.17㎡)、最大80,000冊を収容できるスペースを確保しており、これを共用とする。本学は専門医療分野の蔵書を中心として、専門学校の蔵書16,618冊(うち外国書900冊)及び新潟リハビリテーション大学院大学(以下、大学院とする)の蔵書2,750冊(うち外国書307冊)をあわせ蔵書数19,368冊をすでに備えている。これに加え開学前年度には、電子ジャーナルを中心に整備をし、心理、哲学、国文学、英米文学などを含む教養基礎分野の蔵書も購入することにより、開学時には少なくとも約21,000冊の蔵書を整備する。学術雑誌は専門学校購読雑誌20種(うち外国誌1誌)と大学院購読雑誌30誌(うち外国誌16誌)の計50誌(17誌)を整備する。視聴覚資料については、専門学校所蔵分545点及び大学院所蔵分51点、計596点を整備する。なお、専門学校所蔵分の図書等については、完成年度まで随時移管する。</p> <p>②電子ジャーナル・電子データベースの整備 現在文献検索データベースとして国立情報学研究所の「CiNii(サイニー)」を整備し、開設時までに、医学文献情報データベースとして「メディカルオンライン」「医学中央雑誌Web版」「Medical Finder」を整備しインターネット上で検索できるサービスを提供する。電子ジャーナルは、現在、Age&AGING-PRINT+ONLINE、DYSPHAGIA-PRINT&ONLINE、NEUROPSYCHOLOGICAL REHABILITATION-PRINT&ONLINE、Archives of Clinical Neuropsychology-PRINT&ONLINEの4誌を導入しているが、開設時までに理学療法分野でJournal of Bodywork and Movement Therapies、Physical Therapy in Sport、Physiotherapy等19誌を導入し、言語聴覚分野ではJournal of Voice、Otolaryngology-Head and Neck Surgery、Brain and Language等13誌導入を予定している。開設後は利用頻度を勘案しながら、また学生の希望に応じて具体的な整備計画を策定しより一層の充実を図る。(資料17参照：開設次追加分 新規電子ジャーナル一覧)</p>	<p>○体育館 341㎡→338.27㎡に変更 建築計画と登記上面積の誤差による変更。</p> <p>○平成23年度現在、本学のサークル数は10を超え、今後も増え、学生の課外活動が活発になることが予想される。また、学生の希望に合わせグラウンド設備の改善を行う。ネット、レーキ、サッカーゴール、野球用具等を購入することにより充実を図っている。</p> <p>○C棟1階食堂の改修工事を平成23年度中に施工する予定であり、工事完了後にはより一層快適に過ごせる食堂になる予定である。</p> <p>○当初23年度中に実施する予定であった食堂改修工事について、学内で進行している他の計画との兼ね合いにて実施は見直しとなった。平成24年度以降、より学生の要望に応えることができるよう総合的な視点から整備を進めていく。</p> <p>○開学時の蔵書の整備について、設置計画段階では21,000冊を予定していたが、学生の学習や知的好奇心の増進に資する為、1670冊増やし22,670冊の蔵書の整備を行った。</p> <p>○学生の学習を支援するために、講義概要に記載されているテキスト・教科書・指定図書・参考書全てを、1冊以上購入し整備を図った。</p> <p>○専門学校所蔵分の図書等については、移管が完了した。</p> <p>○「Medical Finder」に関して、計画では22年4月中に整備予定であったが5月1日現在未整備である。これは本学で未取得であったIPアドレスが本電子ジャーナルには必要不可欠であり、取得のため業者と日程調整を進め、本年6月中には整備できる予定である。</p> <p>○平成22年6月に電子ジャーナル用固定IPアドレスを整備した。また電子ジャーナル「Medical Finder」は整備した。</p> <p>○文献検索データベースとしてScience Direct(Elsevier)も整備した。</p> <p>○左記導入予定の電子ジャーナルの整備も完了した。</p>

認可時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
<p>③他大学との協力 新潟県大学図書館協議会及び新潟県図書館等情報ネットワークに加盟する。学部設置の際は、図書館にて他大学の蔵書を検索できるようにする。</p> <p>④図書館の整備 図書館は、閲覧席数90席及び視聴覚ブース7席など計97席を備える。開設時には開架式書架を整備し、約3万6千冊の収蔵が可能に整備する。完成年度までに開架式書架、閉架式書架を増設し、更に収容可能冊数を増やすよう整備する。また、教員の教育研究活動を支援し、学生の勉学を手助けするため、調査・研究活動の援助、相談を図書館専門職員により随時行う。学生及び教職員が図書館資料を複写できるよう、閲覧室内に複写機を配置する。</p>	<p>○共生型大学連携事業に加盟し新潟県内の大学の学生が各大学図書館の特色のある蔵書を簡単に利用できるようになった。この事により県内教育研究資源の有効活用を図り、各大学の教育・研究の活性化と学習支援サービスの向上を目指している。</p> <p>○新潟県地域共同リポジトリに参画している。</p> <p>○初年度につき変更事項は特になし。 認可時の計画通り履行すべく鋭意努力している。</p> <p>○左記整備は完了した。</p>

- (注) ・ 1～6の項目により記入した事項以外で、設置認可時の計画より変更のあったもの(未実施を含む。)及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。
- ・ 認可申請書の「設置の趣旨等を記載した書類」の項目に沿って作成し、それ以外の事柄については適宜項目を設けてください。(記入例参照)

⑥ 入学者選抜の概要

認可時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
<p>(a)入学者受入方針（アドミッション・ポリシー） リハビリテーション分野において地域社会や国際社会に貢献するためには、人間愛や道徳心を持ち、広い視野に立って専門性の高い知識や技術を身に付けることが求められる。このため、高校時代において大学の授業の土台となる教科として、特に、国語、理科、英語をしっかりと勉強しておくことが、きわめて重要である。これらの教科の基礎知識を幅広く確実に修得しておくことは、大学の授業をスムーズに理解するのに役立つ。</p> <p>(b)入学資格 ①高等学校又は中等教育学校を卒業した者 ②外国において、学校教育における12年の課程を修了した者またはこれに準ずる者で文部科学大臣の指定した者 ③文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在学教育施設の当該課程を修了した者 ④文部科学大臣の指定した者（昭和23年5月31日文部省告示第47号） ⑤高等学校卒業程度認定試験規則（平成17年文部科学省令第1号）による高等学校卒業程度認定試験に合格した者（同規則附則第2条の規定による廃止前の大学入学資格検定試験（昭和26年文部省令第13号）による大学入学者資格検定に合格した者も含む。）</p> <p>(c)募集人員と選考方法 ①理学療法学専攻（40名） 一般入学試験 A日程 17名 B日程 3名 「調査書」「学力試験」「面接」による総合判定 特別入学試験 公募推薦 18名 社会人選抜 2名 「調査書」「面接」「小論文」による総合判定 ②言語聴覚学専攻（40名） 一般入学試験 A日程 17名 B日程 3名 「調査書」「学力試験」「面接」による総合判定 特別入学試験 公募推薦 18名 社会人選抜 2名 「調査書」「面接」「小論文」による総合判定</p> <p>(c)入学者選抜方法 新潟リハビリテーション大学</p>	<p>○本学の入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）を遵守すべく入学試験を実施した。入学試験には設置計画に従い、面接に加え、小論文（推薦・社会人）および科目試験（必修：国語、選択：物理・化学・生物）を課した。英語を積極的に取り入れるという意味で、入学後にプレイスメントテストを受けさせ、クラス分けによる英語の講義を行っている（英語ⅠⅡⅢ・オーラルコミュニケーションⅠⅡⅢ）。</p> <p>(c) 募集人員と選考方法 ①理学療法学専攻（40名） 一般入学試験 A日程・B日程・C日程 合計18名 「調査書」「科目試験」「小論文」による総合判定 推薦入学試験 指定校推薦および公募推薦A日程・B日程・C日程 合計15名 「調査書」「面接」「小論文」による総合判定 社会人選抜A日程・B日程・C日程 若干名 「調査書」「面接」「小論文」による総合判定 A0入学試験 合計5名 2回の適性相談で適性を認められた場合出願可能となる。 「面接」による総合判定 大学入試センター試験利用入学試験 A日程・B日程 合計2名 「平成23年度大学入試センター試験の受験科目より本学が指定する科目試験」「提出書類」による総合判定。 ②言語聴覚学専攻（40名） 一般入学試験 A日程・B日程・C日程 合計18名 「調査書」「科目試験」「小論文」による総合判定 推薦入学試験 指定校推薦および公募推薦A日程・B日程・C日程 合計15名 「調査書」「面接」「小論文」による総合判定 社会人選抜A日程・B日程・C日程 若干名 「調査書」「面接」「小論文」による総合判定 A0入学試験 合計5名 2回の適性相談で適性を認められた場合出願可能となる。 「面接」による総合判定 大学入試センター試験利用入学試験 A日程・B日程 合計2名 「平成23年度大学入試センター試験の受験科目より本学が指定する科目試験」「提出書類」による総合判定。</p>

認可時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
	<p>(c) 募集人員と選考方法</p> <p>①理学療法学専攻（40名） 一般入学試験 第1回一般入学試験、第2回一般入学試験 合計18名 「調査書」「科目試験」「小論文」による総合判定 推薦入学試験 指定校推薦および第1回公募推薦入学試験・第2回公募推薦入学試験 合計15名 「調査書」「面接」「小論文」による総合判定 社会入学試験 第1回社会人入学試験、第2回社会人入学試験 若干名 「調査書」「面接」「小論文」による総合判定 A0入学試験 第1回A0入学試験 合計5名 2回の適性相談で適性を認められた場合出願可能となる 「面接」による総合判定 第2回A0入学試験 若干名 事前審査として小論文を提出し審査の結果、適性を認められた場合出願可能となる。 「面接」による総合判定 大学入試センター試験利用入学試験 前期日程・後期日程 合計2名 「平成24年度大学入試センター試験の受験科目より本学が指定する科目試験」 「提出書類」による総合判定。</p> <p>②言語聴覚学専攻（40名） 一般入学試験 第1回一般入学試験、第2回一般入学試験 合計18名 「調査書」「科目試験」「小論文」による総合判定 推薦入学試験 指定校推薦および第1回公募推薦入学試験・第2回公募推薦入学試験 合計15名 「調査書」「面接」「小論文」による総合判定 社会入学試験 第1回社会人入学試験、第2回社会人入学試験 若干名 「調査書」「面接」「小論文」による総合判定 A0入学試験 第1回A0入学試験 合計5名 2回の適性相談で適性を認められた場合出願可能となる。 「面接」による総合判定 第2回A0入学試験 若干名 事前審査として小論文を提出し審査の結果、適性を認められた場合出願可能となる。 「面接」による総合判定 大学入試センター試験利用入学試験 前期日程・後期日程 合計2名 「平成24年度大学入試センター試験の受験科目より本学が指定する科目試験」 「提出書類」による総合判定。</p>

認可時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
	<p>(c) 募集人員と選考方法</p> <p>①理学療法学専攻（40名） 一般入学試験 第1回一般入学試験、第2回一般入学試験 合計18名 「調査書」「科目試験」「小論文」による総合判定 推薦入学試験 指定校推薦および第1回公募推薦入学試験・第2回公募推薦入学試験 合計15名 「調査書」「面接」「小論文」による総合判定 社会入学試験 第1回社会人入学試験、第2回社会人入学試験 若干名 「調査書」「面接」「小論文」による総合判定 A0入学試験 第1回A0入学試験 合計5名 2回の適性相談で適性を認められた場合出願可能となる 「面接」による総合判定 第2回A0入学試験 若干名 事前審査として小論文を提出し審査の結果、適性を認められた場合出願可能となる。 「面接」による総合判定 大学入試センター試験利用入学試験 前期日程・後期日程 合計2名 「平成25年度大学入試センター試験の受験科目より本学が指定する科目試験」 「提出書類」による総合判定。（25）</p> <p>②言語聴覚学専攻（40名） 一般入学試験 第1回一般入学試験、第2回一般入学試験 合計18名 「調査書」「科目試験」「小論文」による総合判定 推薦入学試験 指定校推薦および第1回公募推薦入学試験・第2回公募推薦入学試験 合計15名 「調査書」「面接」「小論文」による総合判定 社会入学試験 第1回社会人入学試験、第2回社会人入学試験 若干名 「調査書」「面接」「小論文」による総合判定 A0入学試験 第1回A0入学試験 合計5名 2回の適性相談で適性を認められた場合出願可能となる。 「面接」による総合判定 第2回A0入学試験 若干名 事前審査として小論文を提出し審査の結果、適性を認められた場合出願可能となる。 「面接」による総合判定 大学入試センター試験利用入学試験 前期日程・後期日程 合計2名 「平成25年度大学入試センター試験の受験科目より本学が指定する科目試験」 「提出書類」による総合判定。（25）</p>

- (注) ・ 1～6の項目により記入した事項以外で、設置認可時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。
- ・ 認可申請書の「設置の趣旨等を記載した書類」の項目に沿って作成し、それ以外の事柄については適宜項目を設けてください。（記入例参照）

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD活動含む）

① 実施体制

a 委員会の設置状況

平成19年度に先に開学していた大学院のFD委員会を、学部増設に伴い、院と学部の合同の委員会に改編した。学部長理理学療法専攻教授を委員長とし、教員7名6名、事務職員1名の合計8名7名で構成している。FD委員会は教員の教育指導能力の向上、研究能力の向上を図ることを目的とし、学内におけるFD活動が持続的に実行されるよう運営を行う。FD委員会の規程を下記に転載する。

新潟リハビリテーション大学 ファカルティ・デベロップメント委員会規程

- (目的) 第一条 この規程は新潟リハビリテーション大学学則第2条(3)及び大学院学則第2条(3)に基づき設置されるファカルティ・デベロップメント委員会(以下「委員会」という)の構成、役割、運営等について定める。
- (構成) 第二条 委員会は次に掲げる委員をもって構成する。
1. 学長が委嘱する委員若干名。
2. 委員の任期は2年とする。
- (役割) 第三条 委員会はファカルティ・デベロップメント活動(以下FD活動という)が持続的に実行されるよう、次の事項について審議するとともに、各年度におけるFD活動の推進機能を併せもつものとする。
1. FD活動の企画立案。
2. FD活動の実施計画の立案。
3. FD活動の評価。
4. FD活動に関する情報の収集と提供。
5. その他、学長の諮問する事項。
- (会議) 第四条 委員会は必要に応じて会議を開くものとする。
1. 委員会は委員長が召集し、その議長となる。
2. 委員長に事故があるときは、副委員長がその職務を行う。
3. 委員長は、必要と認めた場合、委員以外の者を出席させることができる。
4. 委員会は、委員の過半数を持って成立し、審議事項の決議には出席委員の過半数の賛成を必要とする。
- (規程の改廃) 第五条 この規程の改廃は、委員会の議を経て、大学の定める手続きによる。
- 付則 1. この規程は、平成19年4月1日から施行する。
2. この規程は、施行後2年以内に見直しを行うものとする。
3. この規程は、平成22年4月1日から施行する。

b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）

【平成22年度】

- FD委員会：平成22年度第1回 → 平成22年 4月12日 (FD委員6名参加 2名欠席)
第2回 → 平成22年 5月10日 (FD委員7名参加 1名欠席)
第3回 → 平成22年 7月12日 (FD委員6名参加 2名欠席)
第4回 → 平成22年11月 8日 (FD委員7名参加 1名欠席)

【平成23年度】

- FD委員会：平成23年度第1回 → 平成23年 4月11日 (FD委員6名参加 1名欠席)
第2回 → 平成23年12月12日 (FD委員7名参加)
第3回 → 平成24年 3月12日 (FD委員6名参加 1名欠席)

【平成23年度】

- FD委員会：平成23年度第1回 → 平成23年 4月11日 (FD委員6名参加 1名欠席)
第2回 → 平成23年12月12日 (FD委員7名参加)
第3回 → 平成24年 3月12日 (FD委員6名参加 1名欠席)

【平成24年度】

- FD委員会：平成24年度第1回 → 平成24年 4月 9日 (FD委員6名参加 1名欠席)
第2回 → 平成25年 3月11日 (FD委員7名参加)

c 委員会の審議事項等

【平成22年度】

第1回FD委員会（平成22年4月12日）

1. FD委員会の位置づけ確認
2. 年度計画について
3. 新任教員研修会について
4. 第2回FD委員会について

第2回FD委員会（平成22年5月10日）

1. 年度計画について
2. 第1回FD研修会について
3. 講義アンケート内容について
4. 公開講義について
5. 第3回FD委員会について

第3回FD委員会（平成22年7月12日）

1. 講義に関するアンケートについて
2. 第3・4回FD研修会について

第4回FD委員会（平成22年11月8日）

1. 第4回FD研修会について
2. 公開講義について

【平成23年度】

第1回FD委員会（平成23年4月11日）

1. 平成22年度 FD活動報告
2. 平成23年度 FD活動計画（案）

第2回FD委員会（平成23年12月12日）

1. 今後のFD活動について
2. FD研修会の内容について

【平成24年度】

第1回FD委員会（平成24年4月9日）

1. 平成23年度 FD活動報告
2. 平成24年度 FD活動計画（案）

② 実施状況

a 実施内容

- ・年間計画の立案、作成（下記に平成22年度・平成23年度の年間計画を示す。）
- ・新任教員のための研修会
- ・専任教員のためのFD研修会
- ・講義評価アンケートの実施
- ・講義評価アンケートの各教員へのフィードバックと改善に向けた意見書作成
- ・公開講義

平成22年度 FD活動年間計画

- 4月 新任教員研修
- 5月 FD委員会
- 6月 FD研修会
- 7月 FD委員会、学生による講義アンケート実施
- 9月 FD研修会
- 10月 公開講義開催
- 12月 FD研修会
- 2月 学生による講義アンケート実施
- 3月 公開講義開催

平成23年度 FD活動年間計画

- 4月11日 FD委員会・新任教員研修会（4月25日実施「新潟リハビリテーション大学を知る」、FDとは等）
- 5月 公開講義開催（5月13日開催予定「神経生理学」真貝富夫教授）
- 6月 第1回FD研修会（6月13日開催予定「本学学生の特徴と今後の対応について 続編」）
- 7月 平成23年度前期講義に関するアンケート実施
- 9月 FD委員会
- 10月 公開講義開催
- 11月 FD研修会
- 12月 FD委員会
- 1月 FD研修会
- 2月 平成23年度後期講義に関するアンケート実施
- 3月 FD委員会

平成24年度 FD活動年間計画

- 4月9日 FD委員会
- 5月 公開講義（5月14日開催予定「精神医学」的場已知子准教授）・新任教員研修会予定
- 6月 第1回FD研修会（6月11日開催予定「GPAの仕組みと活用方法について」）
- 7月 第2回FD研修会（7月9日開催予定「講義に関するアンケートより見えてきたこと」）
講義に関するアンケート実施
- 10月 公開講義開催予定
- 11月 FD研修会
- 12月 FD委員会
- 1月 FD研修会
- 2月 平成24年度後期講義に関するアンケート実施
- 3月 FD委員会

b 実施方法

- ・新任教員のための研修会について
年度当初にFD委員会主催による新任教員のための研修会を実施する。FDの目的や位置づけについて理解を深めるとともに、FD活動の取り組みについて周知させることを目的とする。
- ・専任教員のためのFD研修会について
専任教員を対象に、年3回程度のFD研修会を実施する。テーマはFD委員会が決定する。
- ・講義評価アンケートの実施方法について
全ての講義の最終コマにおいて、受講した学生に担当教員がアンケート用紙を配布し、無記名で回答してもらう。アンケート内容は14項目19項目+2項目の自由記載とする。
アンケート用紙はFD委員が回収し、集計およびとりまとめを行う。
- ・講義評価アンケートの各教員へのフィードバックと改善に向けた意見書作成方法
講義評価アンケートの集計結果を各教員へ渡す。各教員はその結果を建設的に役立てていくべく、次年度に向けた改善意向、意見、抱負等を記載した意見書をFD委員会へ提出する。FD委員会は個々の講義評価とそれに対する教員対応とをとりまとめ、全体の報告書を作成し、学長に報告する。学長は報告内容について、総合的判斷を行う。
- ・公開講義について
講義評価アンケートの集計結果から高得点を得た教員の講義を公開する。公開講義を行うことで、「良い講義」や「講義技術」を教員等が学びとり、教育のスキルアップを図る。

c 開催状況（教員の参加状況含む）

【平成22年度 FD委員会活動報告】

- ・新任教員のための研修会
平成22年4月19日に実施。（1名のみ欠席）
内容：①FDとは何か。 ②なぜFDが必要なのか。 ③大学FD活動の具体的な取り組みについて
- ・専任教員のためのFD研修会
第1回：平成22年6月14日開催予定
テーマ「これからの大学教育の質保証のあり方—大学と評価機関の役割」
参加教員：19名（6名欠席）
第2回：平成22年9月に実施予定 10月18日開催
テーマ「よい講義をするためのポイント～できない学生をできる学生にできるか～」
参加教員：21名（4名欠席）
第3回：平成22年12月に実施予定 平成23年2月28日開催
テーマ「未定」「本学学生の特徴と今後の対応について」
参加教員：18名（7名欠席）
- ・講義評価アンケートの実施について
各講義の最終コマに担当教員が学生に配布し、FD委員会にて回収と集計を行う予定。実施した。
平成22年7月中旬～下旬：講義に関するアンケート実施（対象：前期終了17科目）
平成23年2月中旬～下旬：講義に関するアンケート実施（対象：通年ならびに後期終了27科目）
- ・講義評価アンケートの各教員へのフィードバックと改善に向けた意見書作成
FD委員会が作成中FD委員会にて改善に向けた意見書「講義に関するアンケートに対するアンケート（教員用）」を作成した。
各担当教員へアンケート結果を配布し、各担当教員が意見書に改善に向けた意見を記載した。
- ・公開講義
10月ならびに3月に実施する予定。
平成23年2月24日 前期の「講義に関するアンケート」で高評価を得た講義を公開した。
「社会心理学」 佐藤拓講師の公開講義を実施。（参加教員13名）
※通年ならびに後期終了科目に対する公開講義は次年度の4月又は5月に開催する予定。

【平成23年度 FD委員会活動報告】

- ・ 新任教員のための研修会
平成23年4月25日（対象教員2名参加、昨年度欠席者1名を対象とし今年度参加）
内容：①新潟リハビリテーション大学を知る。②本学におけるFDの取り組み
- ・ 専任教員のためのFD研修会
第1回：平成23年6月13日開催予定
テーマ：「本学学生の特徴と今後の対応について 続編」
第2回：平成23年11月開催予定平成24年1月16日
テーマ：「未定」本学学生に対する教育方法の検討（ディスカッション）
第3回：平成24年1月開催予定平成24年2月13日
テーマ：「未定」本学学生に対する教育方法の検討 続編
- ・ 講義評価アンケートの実施について
各講義の最終コマに担当教員が学生に配布し、FD委員会にて回収し集計する予定した。
平成23年7月中旬～下旬：講義に関するアンケート実施（対象：前期終了45科目予定）
平成24年2月中旬～下旬：講義に関するアンケート実施（対象：通年ならびに後期終了47科目予定）
- ・ 講義評価アンケートの各教員へのフィードバックと改善に向けた意見書作成
各担当教員へアンケート結果を配布し、各担当教員が改善に向けた意見を記載する。
- ・ 公開講義
平成23年5月13日 前年度の「講義に関するアンケート」で高評価を得た講義を公開する。
「神経生理学」 真貝富夫教授の公開講義を実施予定。
平成23年10月（未定）前期の「講義に関するアンケート」で高評価を得た講義を公開する予定。未実施

【平成24年度 FD委員会活動報告】

- ・ 新任教員のための研修会
平成24年5月実施予定（対象教員3名）
- ・ 専任教員のためのFD研修会
第1回：平成24年6月11日開催予定
テーマ「GPAの仕組みと活用方法について」
第2回：平成24年7月9日開催予定
テーマ「講義に関するアンケートからみえてきたこと」
第3回：平成24年11月開催予定 平成24年9月10日
第4回：平成25年1月開催予定 平成25年2月18日
- ・ 講義評価アンケートの実施について
各講義の最終コマに担当教員が学生に配布し、FD委員会にて回収し集計する予定。
平成24年7月中旬～下旬：講義に関するアンケート実施（対象：前期終了63科目予定）
平成25年2月中旬～下旬：講義に関するアンケート実施（対象：通年ならびに後期終了67科目予定）
- ・ 講義評価アンケートの各教員へのフィードバックと改善に向けた意見書作成
各担当教員へアンケート結果を配布し、各担当教員が改善に向けた意見を記載する。
- ・ 公開講義
平成24年5月14日 前年度の「講義に関するアンケート」で高評価を得た講義を公開する。
「精神医学」 的場巳知子准教授の公開講義を実施予定。
平成23年10月（未定）前期の「講義に関するアンケート」で高評価を得た講義を公開する予定。

【平成25年度 FD委員会活動報告】

- ・ 新任教員のための研修
平成25年5月実施予定

- ・ 専任教員のためのFD研修会
第1回：平成25年6月11日開催予定
テーマ「臨床実習の在り方」
第2回：平成25年11月開催予定
第3回：平成26年1月開催予定

- ・ 講義評価アンケートの実施について
各講義の最終コマに担当教員が学生に配布し、FD委員会にて回収し集計する予定。
平成25年7月中旬～下旬：講義に関するアンケート実施（対象：前期終了64科目予定）
平成26年2月中旬～下旬：講義に関するアンケート実施（対象：通年ならびに後期終了70科目予定）

- ・ 講義評価アンケートの各教員へのフィードバックと改善に向けた意見書作成
各担当教員へアンケート結果を配布し、各担当教員が改善に向けた意見を記載する。

- ・ 公開講座
平成25年5月21日 前年度の「講義に関するアンケート」で高評価を得た講義を公開する。
「神経・筋疾患理学療法学」 松林義人助教を実施予定。
平成25年10月（未定） 前期の「講義に関するアンケート」で高評価を得た講義を公開する予定。

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

→ 講義評価の集計結果は各教員のフィードバック、改善計画等を提出し、検討していくことを予定している。

① FD研修会において、授業改善に対する講義を行った。

第2回 FD研修会「よい講義をするためのポイント～できない学生をできる学生にできるか～」

講師：野田 忠 教授（参加者21名）

② 「講義に関するアンケート」の集計結果を各科目担当教員に配布し、改善案を収集している。

③ 「講義に関するアンケート」にて高評価を得た教員の講義を公開した。

公開講義 「社会心理学」

講師：佐藤 拓 講師（参加者13名）

④ 「講義に関するアンケート」にて高評価を得た教員の講義を公開した。

公開講義 「神経生理学」

講師：真貝 富夫 教授（参加者10名）

⑤ 「講義に関するアンケート」の結果を集計し、全体的総括を研修会にて公表する予定。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

すべての科目に対して、最終講義終了後に講義に関するアンケートを実施している。

b 教員や学生への公開状況、方法等

- ・ アンケート結果を集計し、各教員に対して書面にて通知し、その改善案を収集している。
- ・ FD研修会を通して、全体的総括を専任教員対象に公表し、今後の教育改善に活用してする予定。
- ・ 学生に対しては公開していない。

(注) ・ 「① a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

(3) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

本学は、医療学部設置から4年目を迎え、設置の趣旨に記載された本学の理念、目的が漸く定着しつつある。

(1) 入学定員の確保について

医療学部の入学者は、開設初年度は広報活動の遅れもあり、入学定員80人に対して54人と大きく下回ったが、2年目85人、3年目87人、4年目87人とほぼ定員数を確保しており、高校訪問、オープンキャンパス等の活発な広報活動により、本学の理念、目的が高校生、保護者に浸透してきているといえる。

なお、平成25年度から作業療法学専攻を増設したことにより入学定員は80人から120人となり、平成25年度の入学者は定員と同じ120人を確保している。

(2) 教育研究体制について

医療学部開設から3年目で予定されていた専任教員全員が着任し、漸く教育研究体制が整ったことに伴い、FD委員会が中心となり、新任教員の研修の開催、学生の授業アンケートに基づく模範授業の参観等、教員の資質の向上のための活動を積極的に進めている。また、教員活動評価制度を平成26年度から実施すべく、現在、準備作業中である。

(3) 管理運営について

本学は、大学の最終意思決定機関として大学運営委員会を設置しており、各種委員会、教授会等で審議された事項を迅速に実行できる体制を整備している。また、学内の各機関の目的、位置づけ、審議事項等を規程により明確にし、規程集にまとめ全教職員に配布し、周知徹底を図っている。

(4) 自己点検・評価について

自己点検・評価は、学内の常設機関である自己点検・評価委員会（副学長を委員長とし、学長、研究科長、学部長、学科長、専攻長、学生部長、図書館長、大学事務局長で構成）で大学の諸活動を取りまとめ、毎年、「年報」として発行してきている。

本学は、大学院大学を設置してから7年目にあたり、認証評価機関の認証評価を受けることになっており、自己点検・評価委員会に作業部会を設置し、大学の活動を各委員会でき取りまとめ、また、細部に亘り検討するために、各委員会と自己点検・評価委員会の委員で構成する小委員会を設置して報告書を取りまとめている。

開学後（1ヶ月）間もないため、自己点検・評価は未実施であるが、点検・評価に向けて、自己点検・評価委員会、FD委員会、大学運営委員会等を学内に組織した。今後は自己点検・評価委員会を中心に具体的な検討を定期的に行っていく、設置の趣旨・目的を達成できるように努力していきたい。

自己点検・自己評価規程および自己点検・自己評価委員会規程に基づき、自己点検・評価の作業を開始した。FD委員会はFD研修会を年3回実施。大学運営委員会は予算・入試等について検討を行った。

大学運営委員会は年4回開催し、完成年度にむけて管理運営体制についての検討、改善を行った。また自己点検・自己評価委員会では新たに自己点検・評価委員会作業部会を立ち上げた。自己点検・評価委員会は年2回、作業部会は年1回それぞれ委員会を開催し、平成25年度申請予定である大学認証評価に向けて準備を行った。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

医療学部開設から平成24年度までの活動を取りまとめた自己点検・評価報告書は認定評価機関による審査結果を含めて、今年度中に公表予定。

自己点検・評価報告書の前段階として、平成22年度の活動を記した年報を平成23年度中に公表する予定。平成22年度年報を作成し、11月に公表した。

b 公表方法

・自己点検・評価報告書を今年度中に発行し、関係機関に配布する予定。

・今年度中に本学ホームページに掲載する予定。

・作成した年報および紀要を教職員及び希望のあった学生、他、共同研究実施企業や関連団体、個人に希望冊数を配付予定。

→新潟大学学術リポジトリ内の組織である「新潟県地域共同リポジトリ」で公開する予定である。

→平成22年度年報を教職員及び希望する学生に配付すると共に、共同研究実施企業や関連団体、個人に希望冊数を配付した。

→新潟大学学術リポジトリ内の組織である「新潟県地域共同リポジトリ」で公開した。

③ 認証評価を受ける計画

平成25年度に「財団法人大学基準協会」の認定評価を受ける予定。平成25年4月1日に報告書を提出済み。

平成25年度に「財団法人大学基準協会」で評価を受ける予定である。

現在大学院で「財団法人大学基準協会」で評価を受ける予定としており、学部も同協会にて評価を受ける予定としている。

(注) ・ 設置認可時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(4) 情報公表に関する事項

c 開催状況 (教員の参加状況含む)

○ 設置計画履行状況報告書

- a ホームページに公表の有無 (有 無)
平成25年 7月 末日
- b 公表時期 (未公表の場合は予定時期) (~~平成24年—7月—末日~~)

(注) ・ 「c」において「承諾する」場合、文部科学省のホームページにてリンク先を掲載しますので、大学等のトップページではなく直接リンクする先を「d」に記入してください。
なお、「d」のリンク先のアドレスが未定の場合は、決まり次第、文部科学省高等教育局大学設置室あてにメールにてご報告ください。

※大学設置室メールアドレス : d-secchi@mext.go.jp
件名は「【調査係あて】AC報告書等HPリンク先(〇〇大学)」としてください。